

第2章 余市町の現状と課題

2-1. 人口動態

(1) 人口推移

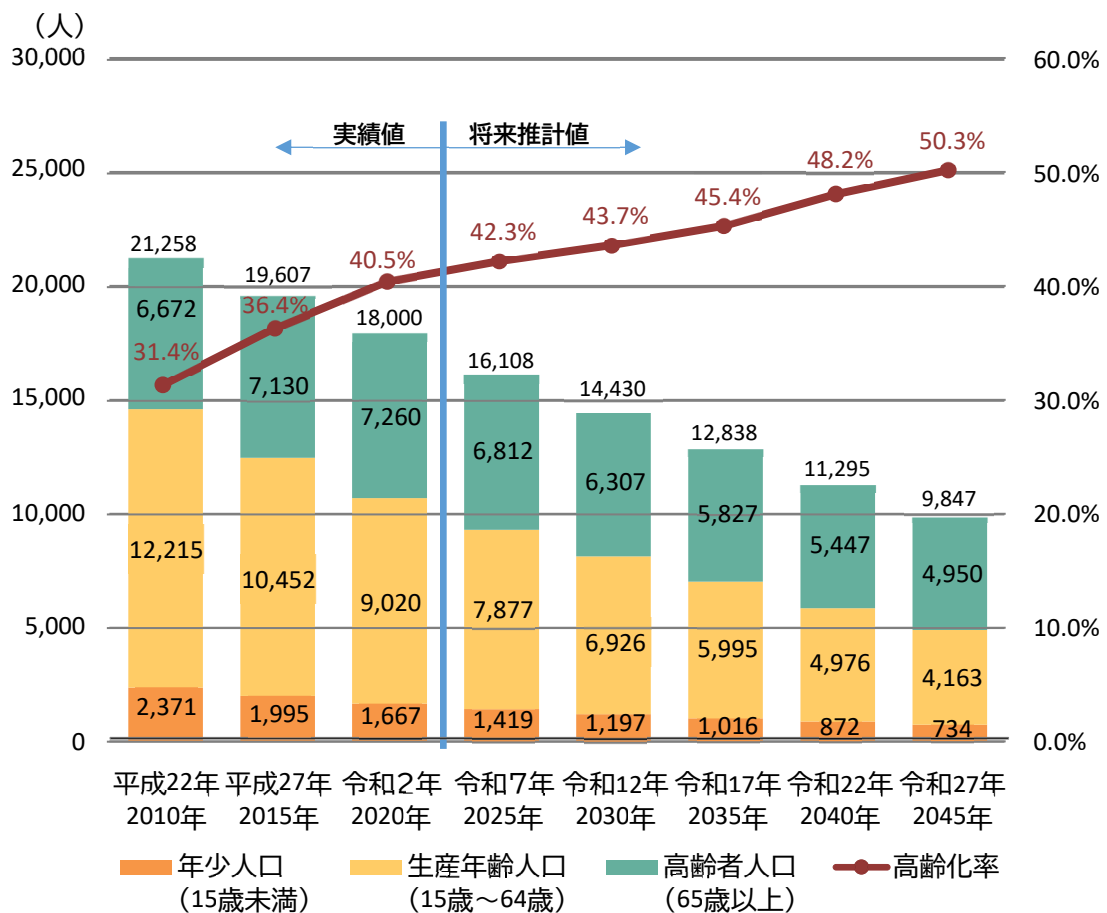
本町の人口は、平成22年（2010年）から令和2年（2020年）の10年間で3,258人（約15%）減少しています。1980年代に26,000人いた人口は、現在に至るまで減少を続けており、今後も状況は変わらないことが予測されています。

国立社会保障・人口問題研究所による将来人口では、令和2年（2020年）の18,000人に対し、令和27年（2045年）には9,847人となる見通しです。平成27年（2015年）の人口を基準に考えると、30年で人口が半減するペースになります。

高齢化率も年々増加し、令和2年（2020年）時点では40.5%となっています。令和27年（2045年）には、高齢化率は50%を超え、余市町民の2人に1人が65歳以上となります。

■余市町の総人口・年齢別人口の推移

（資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所：平成30（2018）年推計）



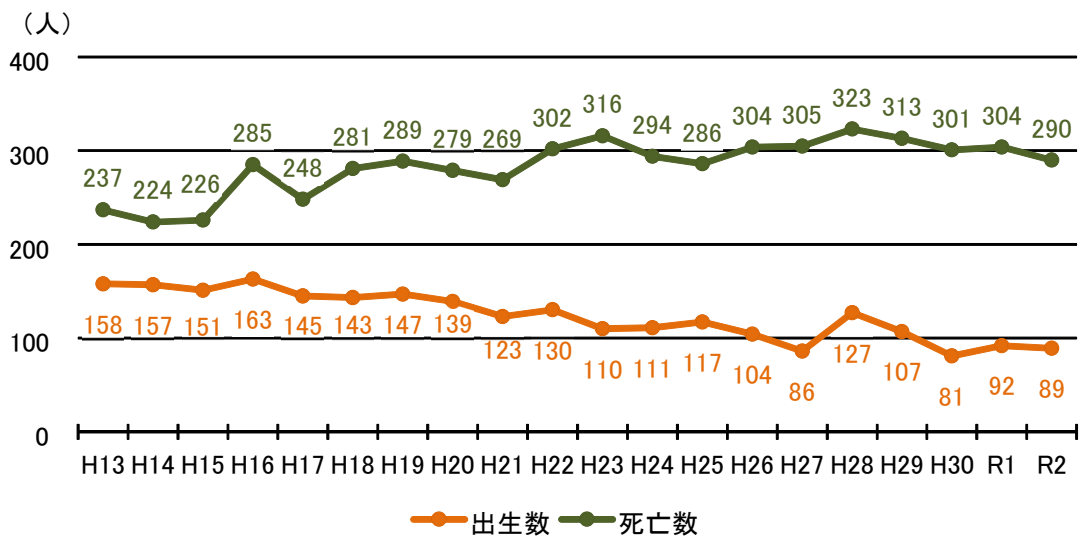
※平成27年、令和2年は年齢不詳が含まれているので合計が合いません。

(2) 人口動態

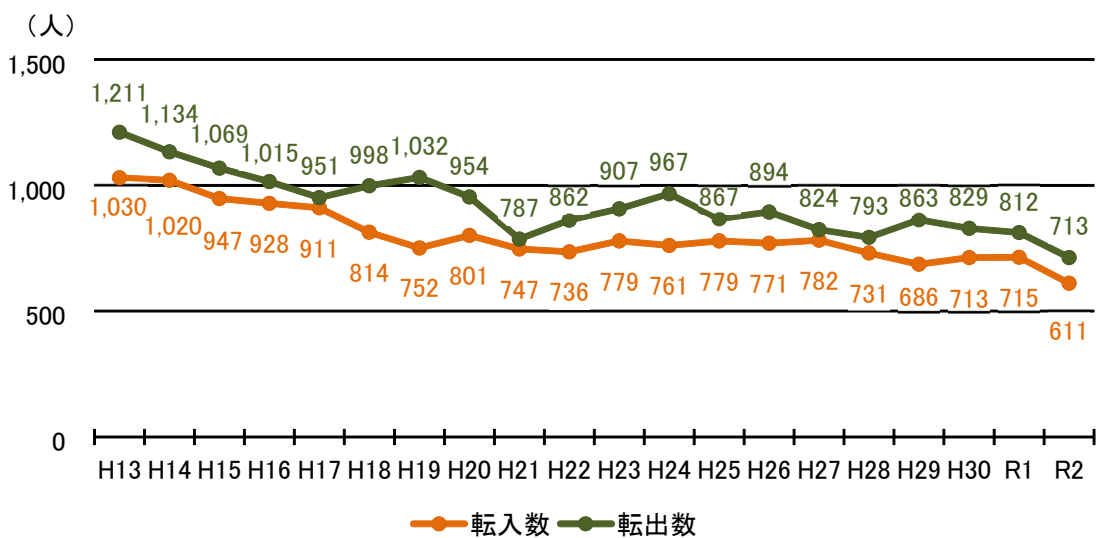
自然動態の推移は、出生数は平成16年（2004年）までは150人以上を維持していましたが、以降は減少が続いており、平成30年（2018年）からは100人を下回る状況になっています。死亡数は、平成22年（2010年）に300人を超えて以降は変化が少なく、横ばいとなっています。

社会動態の推移は、転入・転出ともに減少傾向にあり、転出数が転入数を上回る転出超過による社会減が続いています。令和2年（2020年）では、転入数が611人、転出数が713人と、100人程度の社会減が生じています。

■自然動態（出生・死亡）の推移（資料：住民基本台帳）



■社会動態（転入・転出）の推移（資料：住民基本台帳）



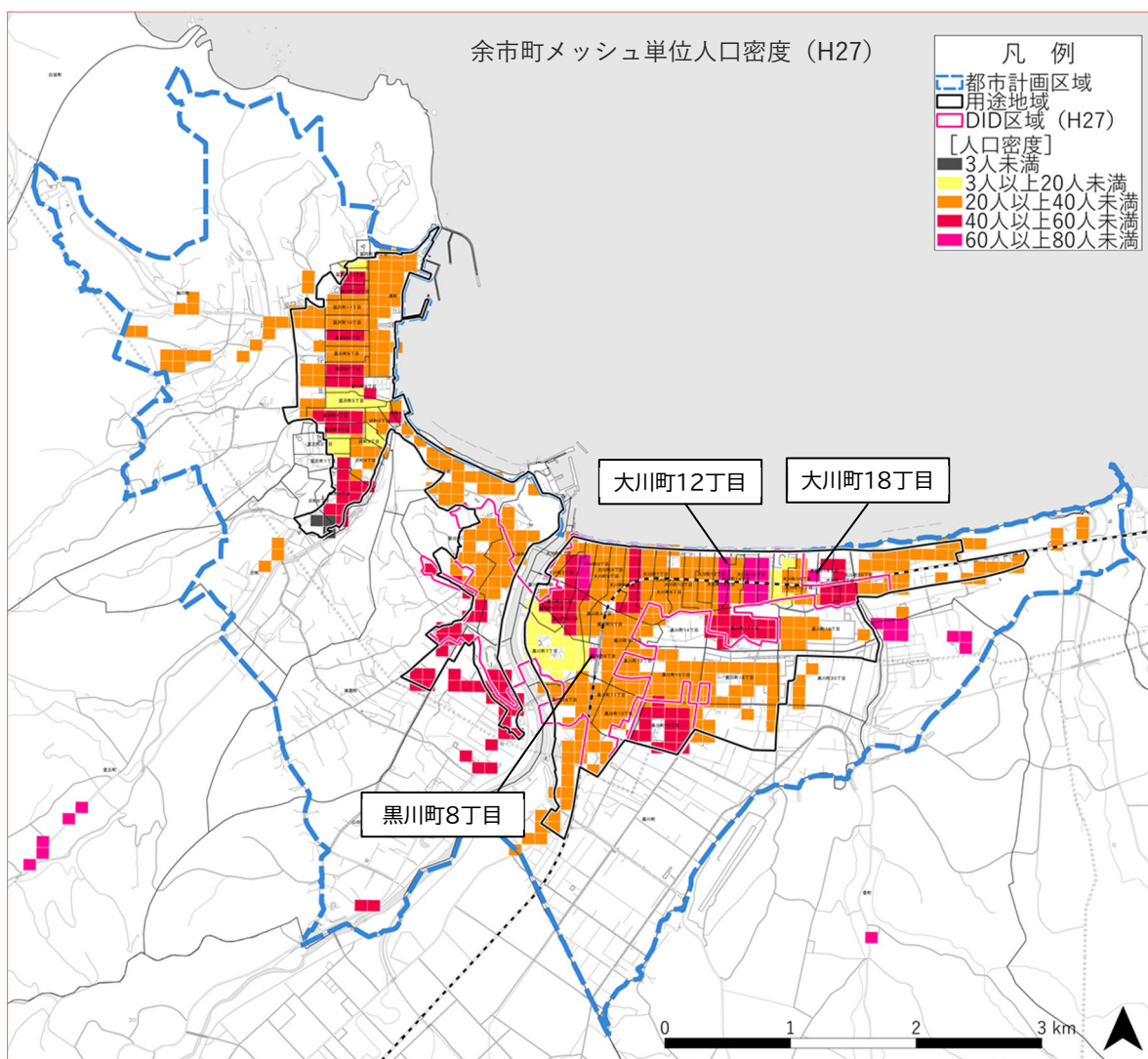
(3) 人口密度の変化（平成27年（2015年）と令和27年（2045年）の比較）

DID（人口集中地区：40人/ha以上）は、JR余市駅を中心に西は余市川、東は登川までを含む範囲となっています。

平成27年（2015年）の100mメッシュ（1haあたり）ごとの人口密度分布は、「大川町12丁目」が72.5人と最も高く、次いで「大川町3丁目」が72.0人、「黒川町8丁目」が68.0人、「大川町18丁目」が65.0人となっています。

町域で見ると、60人以上を示しているのは鉄道から東側の地区に多く、特に大川町に集中している傾向にあります。全体としては、20人以上40人未満の地区が多く広がっており、3人未満の地区は一部となっています。

■平成27年（2015年）の人口密度（資料：国勢調査）

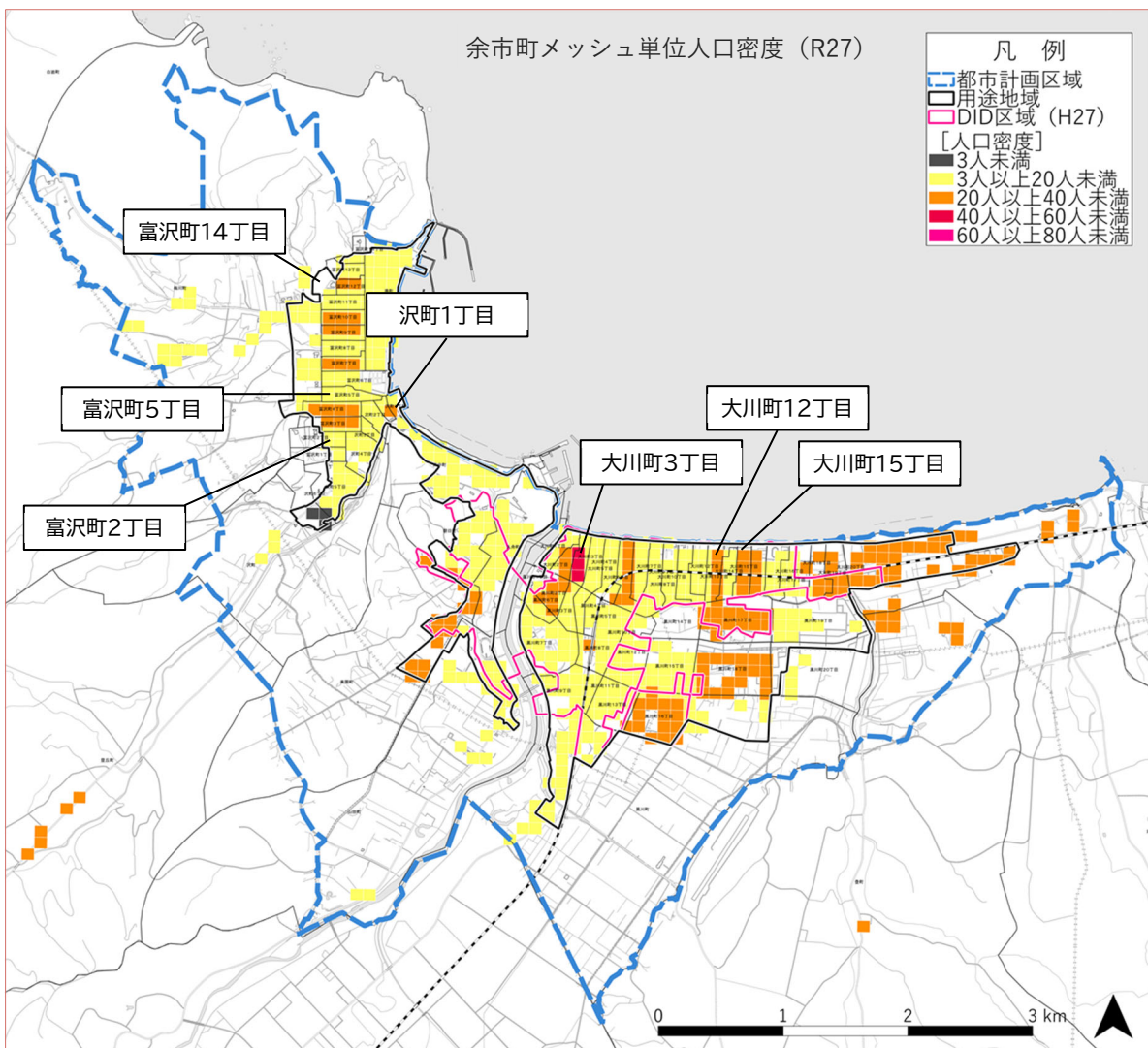


令和27年（2045年）の人口密度分布では、60人以上を示す地区はなくなり、「大川町3丁目」が41.3人と40人以上の人口密度を保持する唯一の地区となります。人口密度が高いのは、「沢町1丁目」が38.0人、「大川町12丁目」が34.5人、「大川町15丁目」が32.5人と続き、東部に多くなっています。全体としては、3人以上20人未満の地区が多数を占めることが予測されています。

平成27年と比較すると、どの地区も人口密度が半減する傾向にあり、「富沢町2丁目」が3.8人、「富沢町14丁目」が6.0人、「富沢町5丁目」が7.0人など、西部の地区の人口が大きく減少することが想定されています。

■令和27年（2045年）の人口密度（資料：国勢調査）

※予想値は「G空間情報センター将来人口・世帯予測ツールV2（H27国調対応版）」を用いて算出

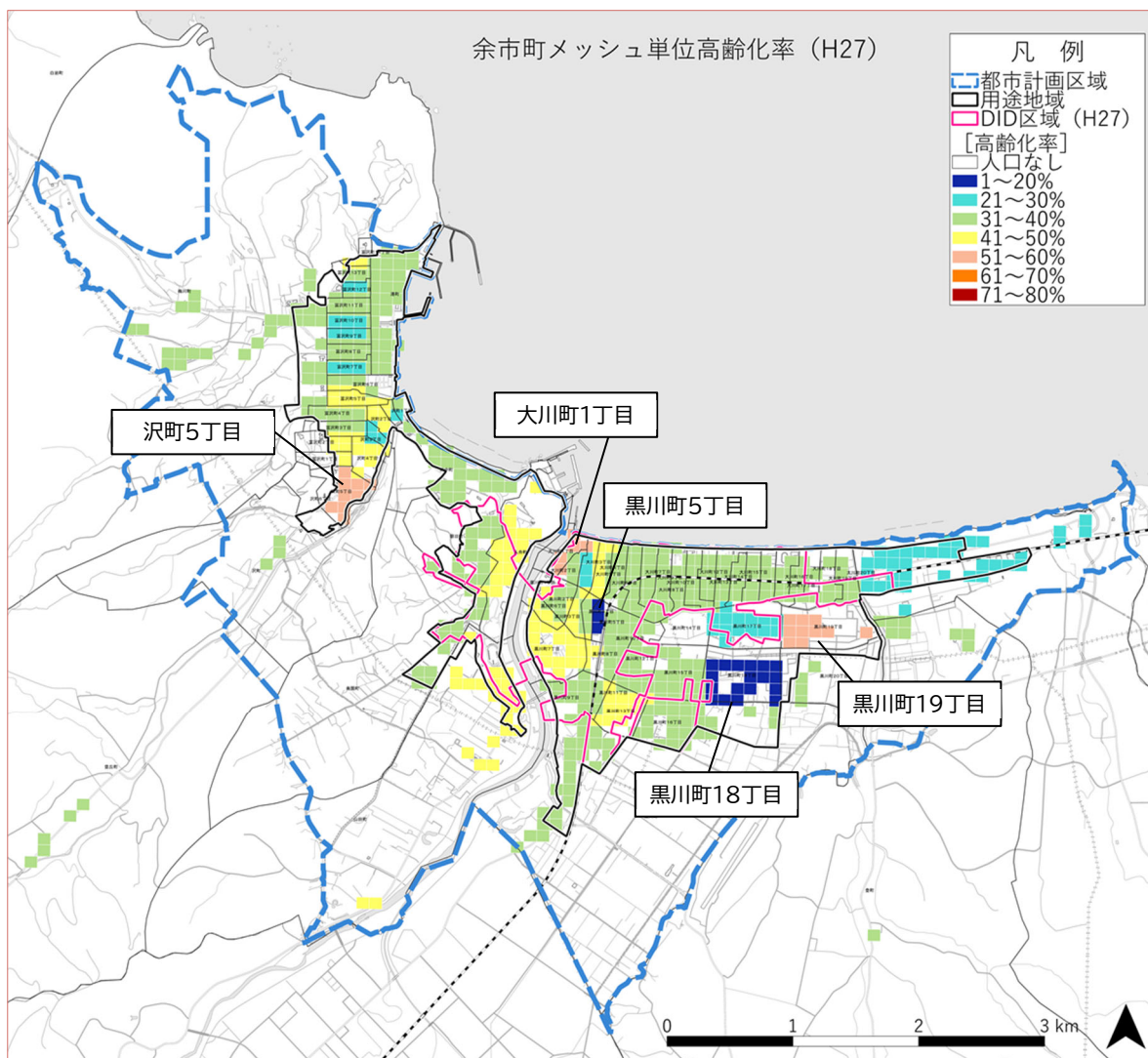


(4) 高齢化率の変化（平成27年（2015年）と令和27年（2045年）の比較）

平成27年（2015年）の100mメッシュ（1haあたり）ごとの高齢化率は、「黒川町19丁目」が60.5%と最も高く、「沢町5丁目」が51.6%、「大川町1丁目」が51.2%と続いています。対して、高齢化率が低い地区は、「黒川町5丁目」が14.9%、「黒川町18丁目」が17.8%となっています。

町域で見ると、ヌッチ川から鉄道までの地区は高齢化率が41%から50%の地区が半数近くを占めており、高齢者の居住が多いエリアとなっています。全体としては、31%から40%の地区が多く分布しています。

■平成27年（2015年）の高齢化率（資料：国勢調査）

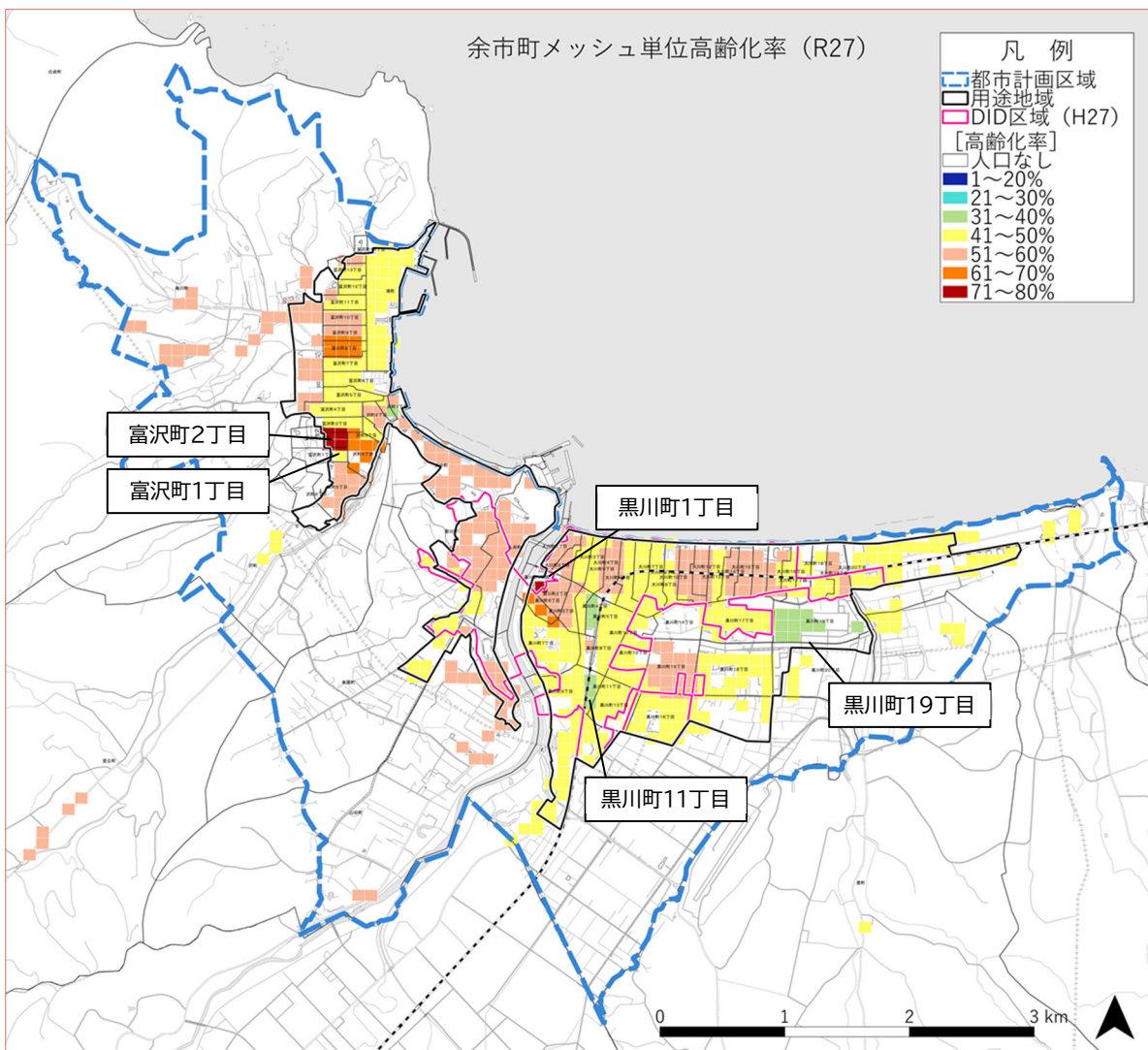


令和27年（2045年）の高齢化率では、30%以下を示す地区はなくなり、最も低い「黒川町19丁目」でも31.1%となります。高齢化率が高いのは、「黒川町1丁目」が76.9%、「富沢町2丁目」が71.4%を示し、全体としては、41%から50%及び51%から60%の地区が多くなります。

平成27年と比較すると、高齢化率がほとんど変わらないのは、「富沢町1丁目（変化なし）」、「黒川町11丁目（0.5ポイント減少）」、「沢町5丁目（0.6ポイント減少）」となっています。平均値としては、各地区の高齢化率が平成27年から14%程度上昇することになります。

■令和27年（2045年）の高齢化率（資料：国勢調査）

※予想値は「G空間情報センター将来人口・世帯予測ツールV2（H27国調対応版）」を用いて算出

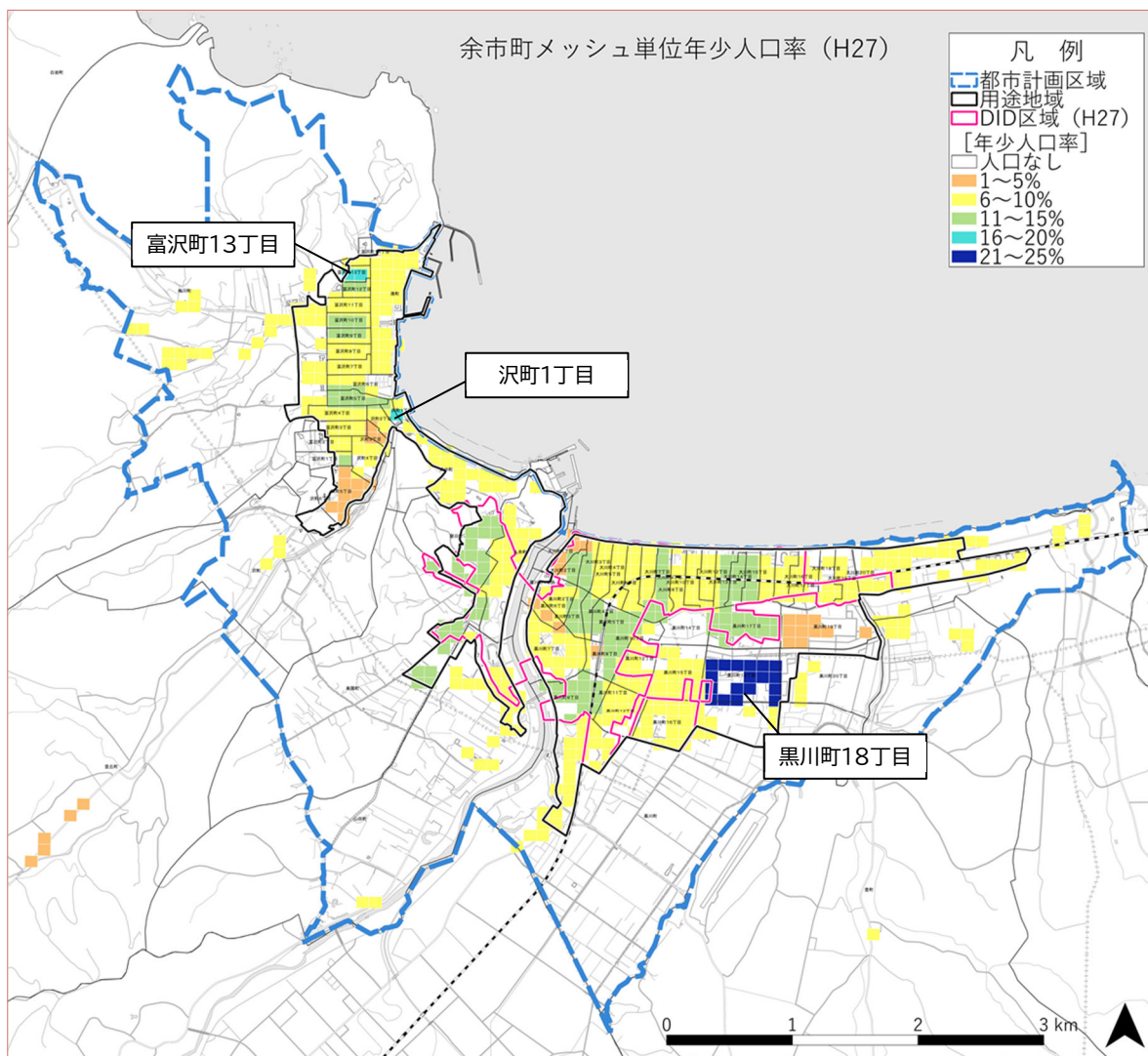


(5) 年少人口率の変化（平成27年（2015年）と令和27年（2045年）の比較）

平成27年（2015年）の100mメッシュ（1haあたり）ごとの年少人口率は、「黒川町18丁目」が23.3%と最も高く、「沢町1丁目」が20.8%、「富沢町13丁目」が17.3%と続いています。

町域で見ると、6%から10%の地区が多く分布しており、11%から15%と比較的に年少人口が多い地区は、市街地と郊外の間の居住地に広がっています。

■平成27年（2015年）の年少人口率（資料：国勢調査）

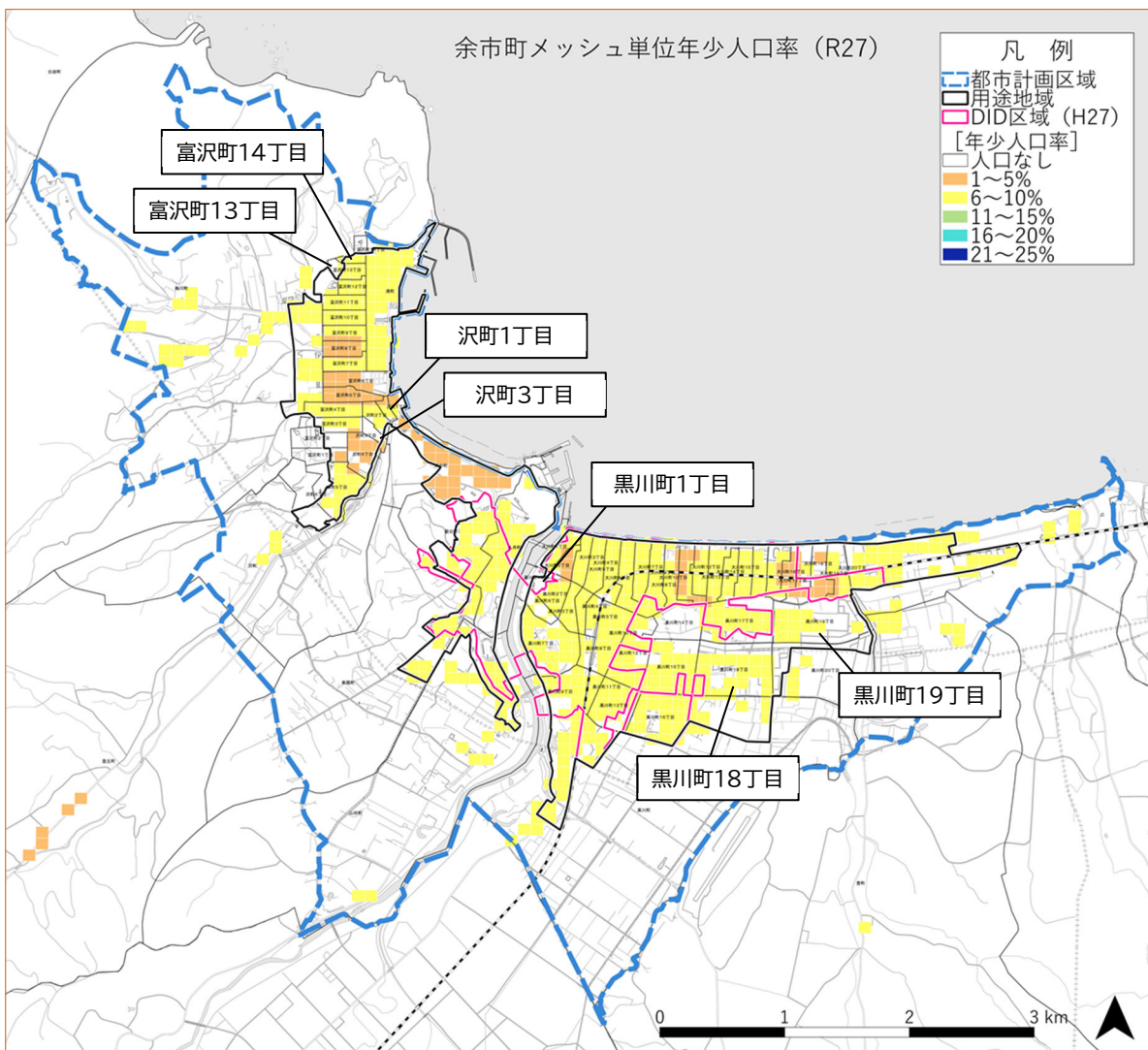


令和27年（2045年）の年少人口率では、10%以上を示す地区は「沢町1丁目」が10.5%、「黒川町19丁目」が10.4%、「富沢町14丁目」が10.0%と3地区のみになります。「黒川町1丁目」や「沢町3丁目」のように、15歳未満の居住者が全くなくなる地区も予測されています。

平成27年と比較すると、年少人口率が大きく変わるのは、「黒川町18丁目（13.4ポイント減少）」、「沢町1丁目（10.2ポイント減少）」、「富沢町13丁目（10.0ポイント減少）」となっています。平均値としては、各地区の年少人口率が平成27年から3%程度減少することになります。

■令和27年（2045年）の年少人口率（資料：国勢調査）

※予想値は「G空間情報センター将来人口・世帯予測ツールV2（H27国調対応版）」を用いて算出



2-2. 土地の利用動向

(1) 土地利用の状況

① 建築敷地

北海道が実施した都市計画基礎調査によれば、用途地域面積660.7haのうち建築敷地は345haで、全体用途地域の52%です。建築敷地以外では、宅地に区分される未利用宅地・資材置場等が68ha(10%)、農地・森林・原野が75.6ha(11%)、道路・公園が143ha(22%)、河川・湖沼等が30ha(5%)となっています。

宅地に区分されているものの、利用されていない未利用地は59ha(9%)あり、住宅地にまだ余裕があるといえます。

■土地利用現況(資料:都市計画基礎調査(令和2年10月1日現在))

大分類	中分類	小分類	細分類	用途地域										合計	白地 にじみ出し
				1低層	1中高	2中高	1住	2住	準住	近商	商業	準工			
建築敷地	-	-	-	176,925	897,767	558,566	891,477	42,154	97,403	76,430	102,196	605,416	3,448,334	655,492	
建築敷地以外	宅地	宅地	未利用宅地	51,937	146,244	168,210	132,183	401	14,065	6,604	10,538	57,827	588,009	138,238	
			資材置場		8,958	2,107	2,957						23,822	37,844	28,117
			屋外運動場等		14,482									14,482	
			臨港地区内未利用地										5,294	5,294	
			青空駐車場		3,726	650	10,785	4,783	750	415	8,719	4,291	34,119	3,957	
			太陽光発電システム用地				1,205							1,205	
			計	51,937	173,410	170,967	147,130	5,184	14,815	7,019	19,257	91,234	680,953	170,312	
	農地	農地(田)	未整備農地											47,901	
			整備済み農地		21,174									21,174	14,948
		農地(畑)	未整備農地		18,902								2,183	21,085	643,169
			整備済み農地	140,106	183,689	46,760	8,538	8,435				21,090	408,618	225,611	
		計	140,106	223,765	46,760	8,538	8,435					23,273	450,877	931,629	
	森林	森林	現況樹林		5,378		131,739						137,117	16,291	
	原野	原野	未利用原野	42,032	72,919	11,848	31,096					11,888	169,783	478,090	
	道路	道路	都市計画道路(整備済)	6,054	3,531	57,820	109,587		37,557	32,781	31,059	33,123	311,512		
			都市計画道路(未整備)		1,438	13,384	38,500		500	714	1,717	5,355	61,608	3,396	
			非可住地道路(都市計画道路以外)									35,575	35,575	34,506	
			その他道路	88,424	221,175	206,605	221,266	5,773	11,336	13,182	17,787	76,209	861,757	234,625	
			計	94,478	226,144	277,809	369,353	5,773	49,393	46,677	50,563	150,262	1,270,452	272,527	
	河川・湖沼等	河川・湖沼等	河川・湖沼等	18,839	25,226	31,530	37,575		2,222		1,481	31,482	148,355	60,578	
	公園緑地	公園緑地	都市公園(都決公園)	17,850	96,000	10,670	12,798				2,559		139,877	17,610	
			都市公園(都決公園以外)	5,049	3,608	3,102	1,875					508	14,142	4,918	
			その他公園		711		413						1,124		
墓地				133	1,948							2,081			
計			22,899	100,452	15,720	15,086				2,559	508	157,224	22,528		
その他	その他	自然地	崖地・荒地等		1,206		2,283					1,848	5,337	13,670	
		水面	ため池・用水路	3,449	3,059	717	235	453				1,852	9,765	16,961	
		その他	その他の都市的土地利用(鉄道用地等)	498	2,534	4,081	18,241		25,410	1,775		87,809	140,348	42,613	
		計	3,947	6,799	4,798	20,759	453	25,410	1,775		91,509	155,450	73,244		
合計			374,238	834,093	559,432	761,276	19,845	91,840	55,471	73,860	400,156	3,170,211	2,025,199		

②建築面積・建築年次

建築件数は7,336件で、建築面積は51㎡～150㎡が最も多く、平均面積は115㎡です。

建築年次は昭和56年以前（経過年数が42年以上）のものが3,765件で、全体の5割以上を占めています。

建築面積		建築年次	
建築面積	棟数	建築年次	棟数
～50㎡	802	～昭和46年	1,573
51～75㎡	2,727	昭和47～56年	2,192
76～150㎡	2,851	昭和57～平成元年	1,119
151～500㎡	765	平成2～11年	1,252
501～1,500㎡	113	平成12～21年	683
1,501㎡～	27	平成22年～	450
不明	51	不明	67
合計	7,336	合計	7,336
平均面積(㎡)	115		

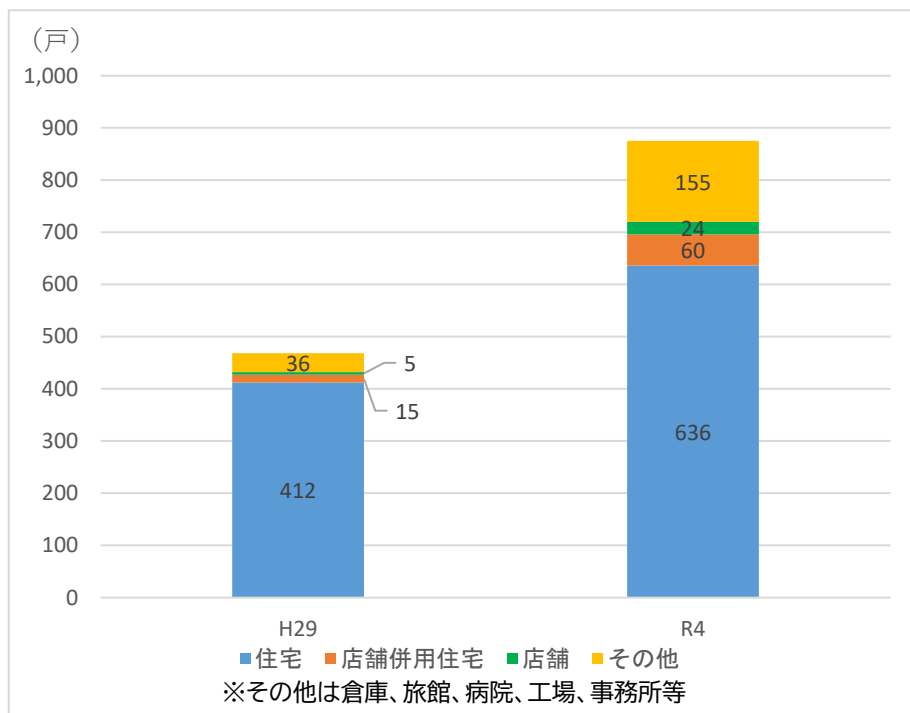
※付属屋（車庫、倉庫、物置、その他）は集計対象から除く

(2) 空き家の状況

総務省所轄の「住宅・土地統計調査」によれば、平成30年（2018年）の住宅総数は約9,910戸であり、過去最多だった平成25年（2013年）から約670戸減少している一方、空き家数は約1,690戸と、5年間で約100戸増加しており、総住宅数に占める空き家の割合（空き家率）は約17.1%と、5年間で約2.1ポイント上昇し、空き家数、空き家率共に過去最高となっております。

余市町が平成29年及び令和4年度に実施した目視による現地調査結果は以下の通りで、5年間で407戸・87.0%増加し、用途別では住宅がもっとも多く224戸増加しています。

■余市町における現地目視調査による空き家数の推移（資料：余市町空家等対策計画）



2-3. 都市機能施設の立地状況

(1) 行政施設

行政施設は、役場をはじめ、保健所、税務署、警察署が朝日町にまとまって立地しています。沢町には駐在所と消防センターがあり、海上自衛隊も含めて核となるエリアを構成しています。

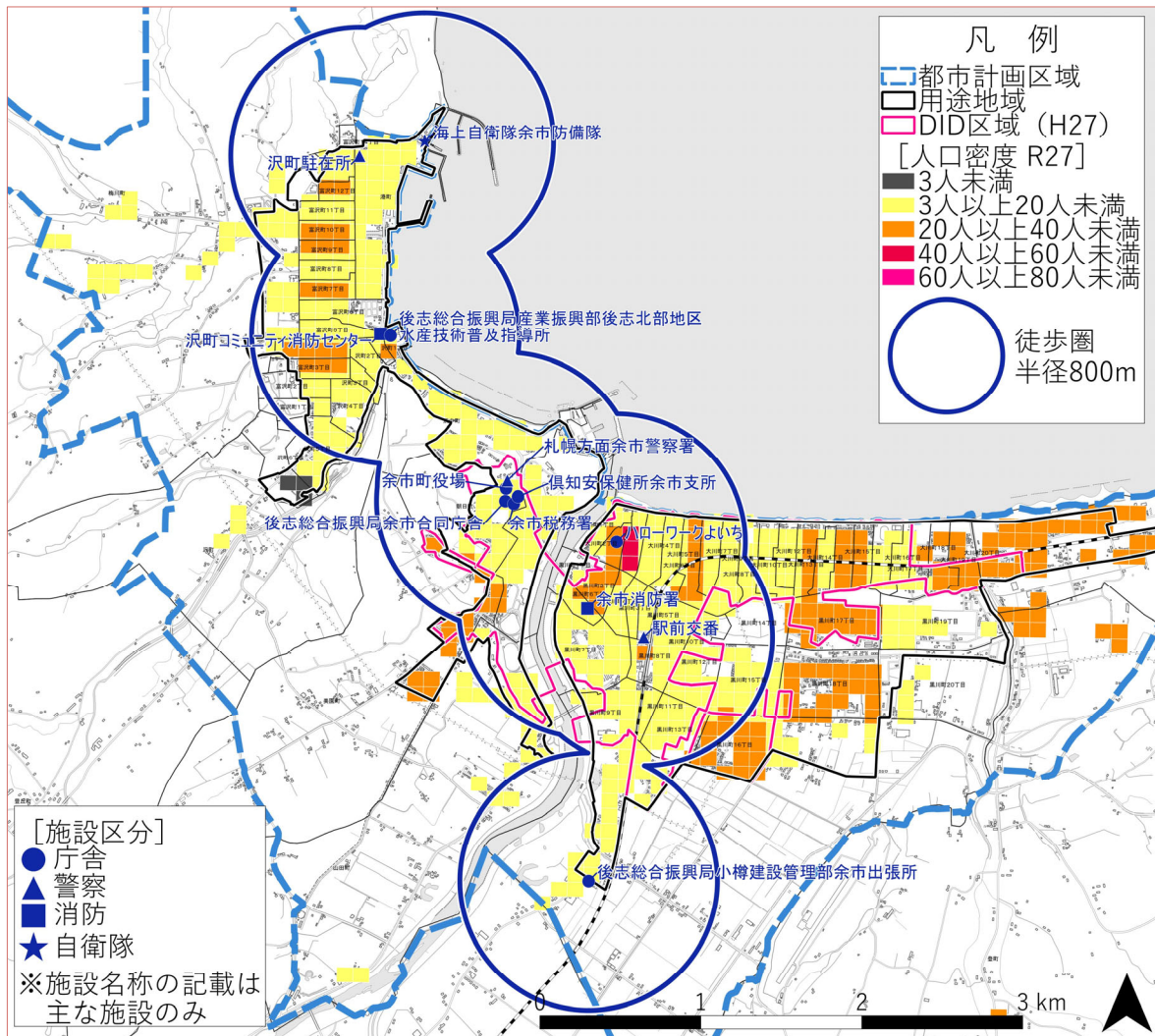
JR余市駅から東側の地域に関しては、行政施設の立地がない状況にあります。

■行政施設の概要

凡例	種類	施設名	住所
●	庁舎	余市町役場	朝日町26番地
		倶知安保健所余市支所	朝日町12番地
		余市税務署	朝日町1番地
		ハローワークよいち	大川町2丁目26番地
		後志総合振興局産業振興部 後志北部地区水産技術普及指導所	浜中町238番地
		後志総合振興局余市合同庁舎	朝日町11番地1
		後志総合振興局小樽建設管理部 余市出張所	黒川町1248番地
▲	警察	札幌方面余市警察署	朝日町27番地
		駅前交番	黒川町5丁目43番地8
		沢町駐在所	港町211番地43
■	消防	余市消防署	黒川町6丁目25番地2
		沢町コミュニティ消防センター	沢町1丁目21番地
★	自衛隊	海上自衛隊余市防備隊	港町国有地

※余市消防署沢町出張所は、令和6年4月から沢町コミュニティ消防センターに名称変更（令和6年1月現在）

■行政施設の立地状況



※余市消防署沢町出張所は、令和6年4月から沢町コミュニティ消防センターに名称変更（令和6年1月現在）

(2) 商業施設

商業施設は、用途地域内においては高密度に集積しており、空白となっている地域はありません。

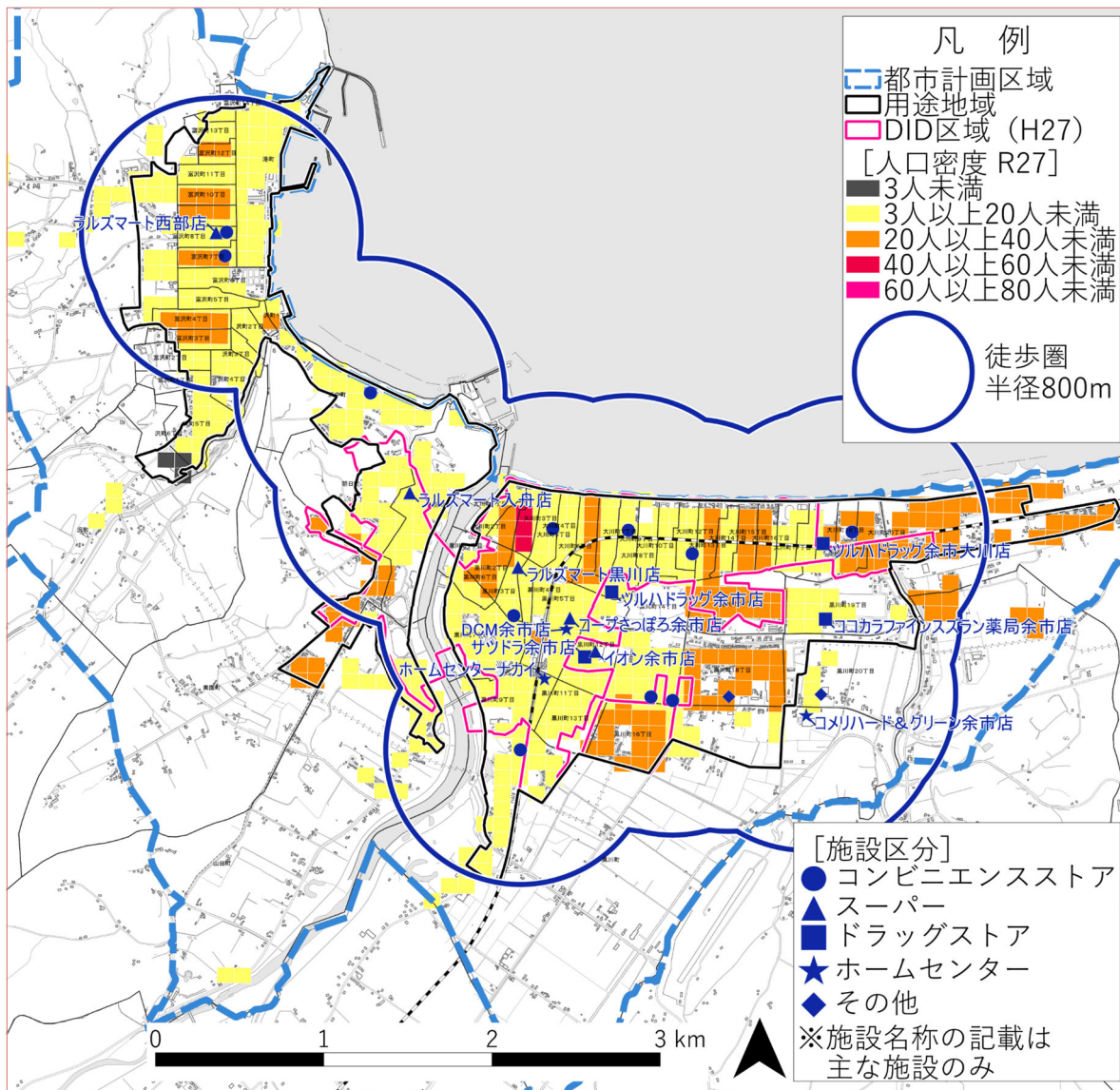
施設の種類では、コンビニエンスストアが多く、大型のスーパーやホームセンターの立地は、黒川町に集中しています。

■商業施設の概要

凡例	種類	施設名	住所
●	コンビニエンスストア	ローソン余市大川四丁目店	大川町4丁目66番地2
		ローソン余市富沢店	富沢町8丁目14番地
		セブンイレブン余市駅前店	黒川町3丁目137番地1
		セブンイレブン余市大川8丁目店	大川町8丁目43番地1
		セブンイレブン余市富沢店	富沢町7丁目19番地1
		セブンイレブン余市黒川15丁目店	黒川町15丁目24番地5
		セブンイレブン余市大川店	大川町19丁目11番地
		セイコーマート余市浜中店	浜中町106番地3
		セイコーマート余市黒川小前店	黒川町885番地4
		セイコーマート余市大川店	大川町11丁目65番地
		セイコーマート余市黒川店	黒川町15丁目21番地10
▲	スーパー	ラルズマート西部店	富沢町8丁目25番地
		ラルズマート入舟店	入舟町349番地3
		ラルズマート黒川店	黒川町3丁目17番地
		イオン余市店	黒川町12丁目62番地1号
		コープさっぽろ余市店	黒川町10丁目3番地32
■	ドラッグストア	ツルハドラッグ余市店	大川町8丁目100番地1
		ツルハドラッグ余市大川店	大川町18丁目12番地
		サツドラ余市店	黒川町12丁目67番地2
		ココカラファインズズラン薬局余市店	黒川町19丁目13番地1
★	ホームセンター	コメリハード&グリーン余市店	黒川町654番地7
		DCM余市店	黒川町10丁目3番地32
		ホームセンターナカイ	黒川町11丁目3番地
◆	その他	ケーズデンキ余市店	黒川町20丁目15番地24
		しまむら余市店	黒川町18丁目29番地9

(令和6年1月現在)

■商業施設の立地状況



(令和6年1月現在)

(3) 金融施設

金融施設は、種類では銀行、郵便局、信用金庫があり、大半はJR余市駅周辺に立地しています。

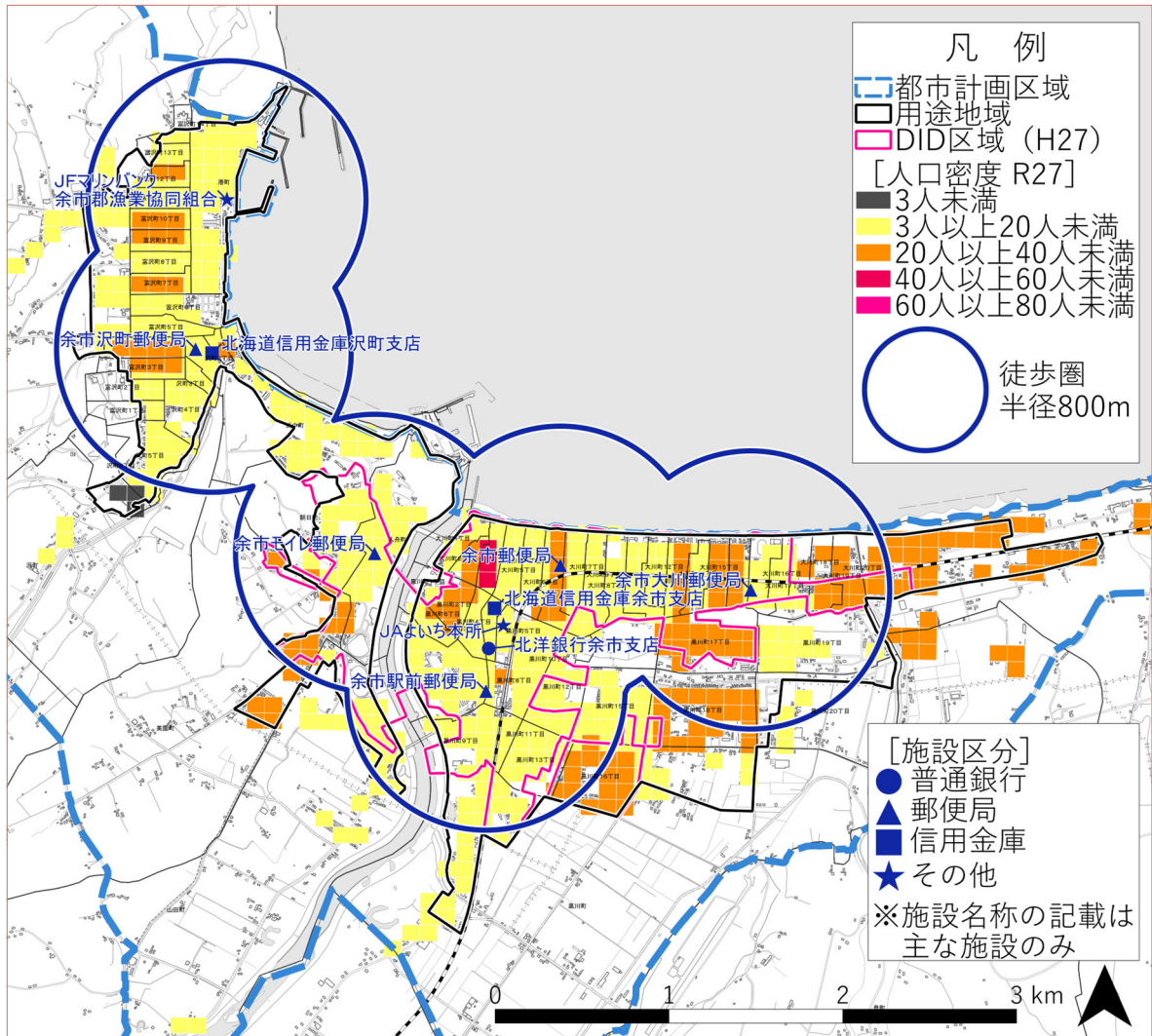
郊外については、沢町、入舟町、大川町に郵便局があり、市街地及び住宅地が広がる用途地域内は、徒歩圏でカバーできる立地となっています。

■金融施設の概要

凡例	種類	施設名	住所
●	普通銀行	北洋銀行余市支店	黒川町4丁目112番地
▲	郵便局	余市郵便局	大川町6丁目31番地
		余市駅前郵便局	黒川町7丁目60番地19
		余市モイレ郵便局	入舟町327番地3
		余市大川郵便局	大川町16丁目8番地9
		余市沢町郵便局	沢町2丁目70番地14
■	信用金庫	北海道信用金庫余市支店	黒川町4丁目5番地
		北海道信用金庫沢町支店	沢町2丁目48番地
★	その他	J A よいち本所	黒川町5丁目22番地
		J F マリンバンク余市郡漁業協同組合	港町148番地

(令和6年1月現在)

■金融施設の立地状況



(令和6年1月現在)

(4) 医療施設

医療施設では、病院は2件となっていますが、診療所・医院の数が充実しており、日常生活における健康状態は、身近で受診できる環境が整っています。

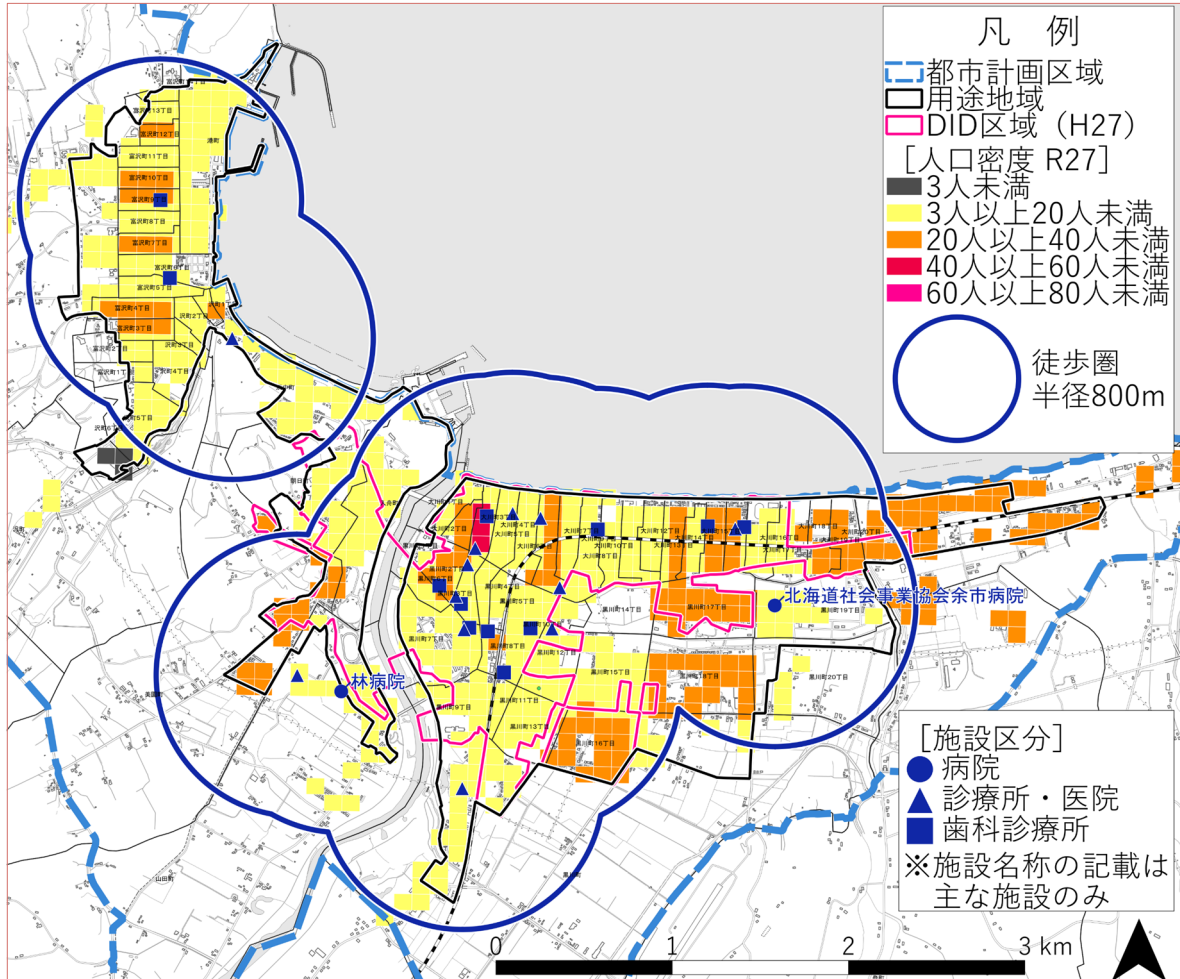
診療所・医院と歯科診療所を含めた医療施設全体の利用範囲は、用途地域内については概ね徒歩で通える立地となっています。

■医療施設の概要

凡例	種類	施設名	住所		
●	病院	北海道社会事業協会余市病院	黒川町19丁目1番地1		
		林病院	山田町50番地1		
▲	診療所・ 医院	小嶋内科	黒川町7丁目13番地		
		北海道勤労者医療協会余市診療所	黒川町12丁目46番地		
		勝田内科皮フ科クリニック	大川町3丁目148番地		
		中島内科	黒川町3丁目109番地		
		北郷耳鼻咽喉科医院	大川町4丁目60番地1		
		黒川町整形外科クリニック	黒川町3丁目25番地		
		田中内科医院	浜中町205番地3		
		よいちクリニック	山田町201番地5		
		池田内科クリニック	黒川町911番地1		
		わたなべ内科医院	大川町6丁目12番地		
		よいち整形外科クリニック	大川町6丁目92番地1		
		脳神経外科よいち汐風クリニック	大川町15丁目10番地		
		■	歯科 診療所	荒木歯科医院	黒川町2丁目207番地
				原歯科	黒川町10丁目63番地1
福井歯科医院	黒川町3丁目104番地2				
水野歯科	黒川町7丁目17番地				
みずの歯科医院	黒川町8丁目6番地				
とりにい歯科医院	黒川町10丁目3番地32 (コープさっぽろ余市店2F)				
佐藤歯科医院	大川町15丁目12番地				
ねりあい歯科医院	大川町8丁目40番地1				
いとう歯科医院	大川町14丁目5番地 太陽ハイツ1F				
青野歯科医院	大川町3丁目63番地				
とみさわ歯科	富沢町9丁目19番地2				
てらデンタルクリニック	富沢町6丁目96番地1				

(令和6年1月現在)

■医療施設の立地状況



(令和6年1月現在)

※病院：医療法で「20人以上の患者を入院させるための病床施設を有するもの」

※医院・クリニック・診療所：医療法の定義で病床数が19以下の医療機関

(5) 教育・文教・体育施設

教育・文教・体育施設は、幼稚園は3施設、小学校は4施設、中学校は3施設、高等学校は2施設となっています。

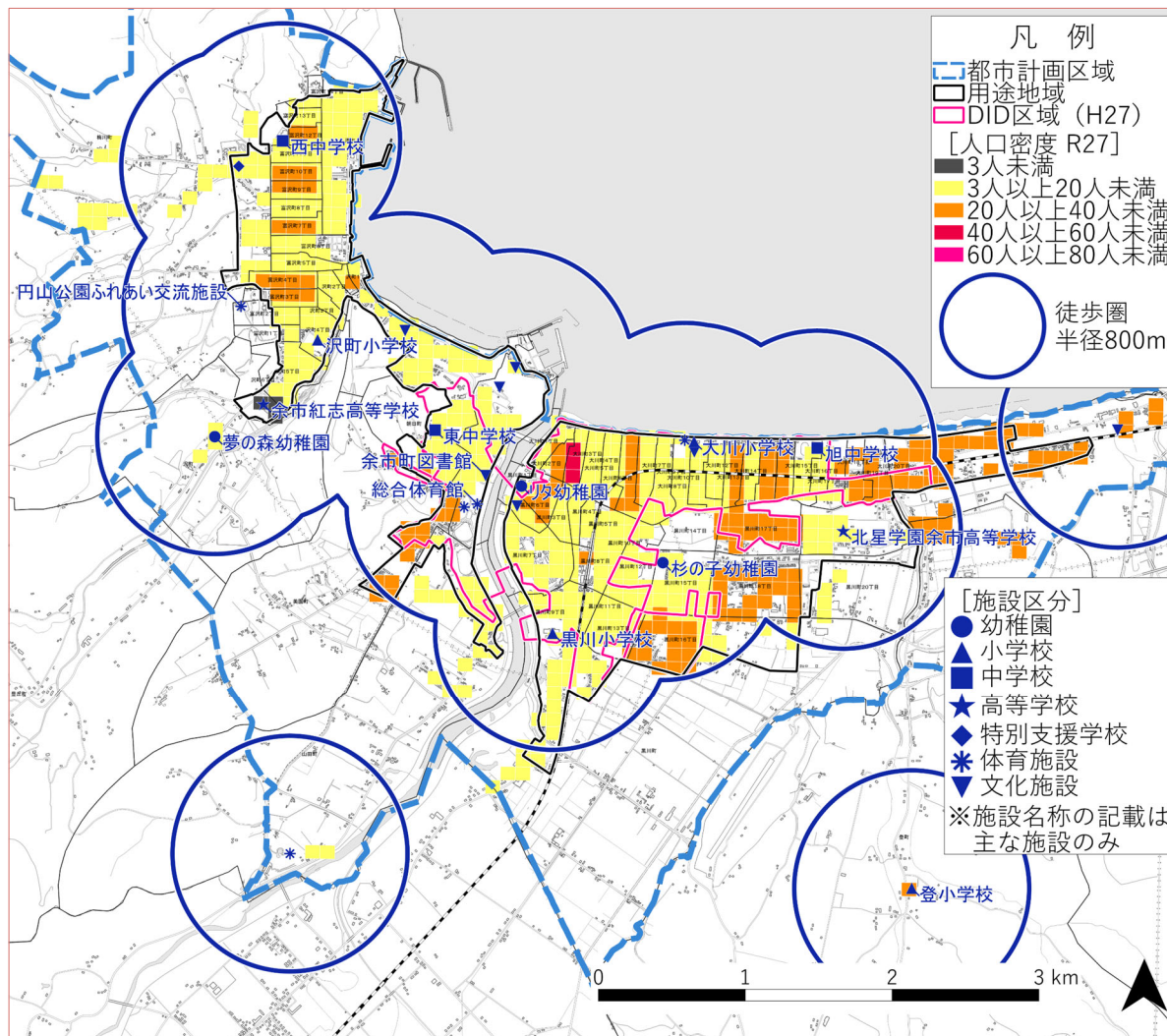
各施設の立地が分散して配置されているため、全体としては広範囲をカバーしていますが、用途・年齢に応じてバスや自転車での移動が必要になります。

■教育・文教・体育施設の概要

凡例	種類	施設名	住所
●	幼稚園	杉の子幼稚園	黒川町15丁目2番地2
		リタ幼稚園	黒川町1丁目17番地
		夢の森幼稚園	沢町331番地
▲	小学校	黒川小学校	黒川町9丁目147番地
		沢町小学校	沢町4丁目22番地
		大川小学校	大川町10丁目1番地
		登小学校	登町1015番地
■	中学校	東中学校	朝日町71番地
		西中学校	梅川町339番地
		旭中学校	大川町16丁目1番地
★	高等学校、 大学	余市紅志高校	沢町6丁目1番地1
		北星学園余市高校	黒川町19丁目2番地1
◆	特別支援 学校	余市養護学校	梅川町377番地3
*	体育施設	総合体育館	入舟町420番地
		温水プール	大川町9丁目3番地 (令和3年4月から休止中)
		運動公園	入舟町420番地
		円山公園ふれあい交流施設	富沢町2丁目32番地
		あゆ場公園パークゴルフ場	山田町713番地1
▼	文化施設	余市町図書館	入舟町413番地
		勤労青少年ホーム	大川町10丁目6番地
		余市宇宙記念館	黒川町6丁目4番地
		余市水産博物館	入舟町21番地
		重要文化財旧下ヨイチ運上家	入舟町10番地
		史跡旧余市福原漁場	浜中町150番地
		史跡フゴッペ洞窟	栄町87番地

(令和6年1月現在)

■教育・文教・体育施設の立地状況



(令和6年1月現在)

(6) 保育・子育て施設

保育・子育て施設は、保育園、保育所が3施設、児童センターが2施設であり、市街地全域が徒歩圏に含まれていませんが、自家用車での送迎が主となっているのが現状です。

区画整理された黒川町17丁目に新たに子育て支援施設ができ、子育て世帯の受け入れに対応しています。

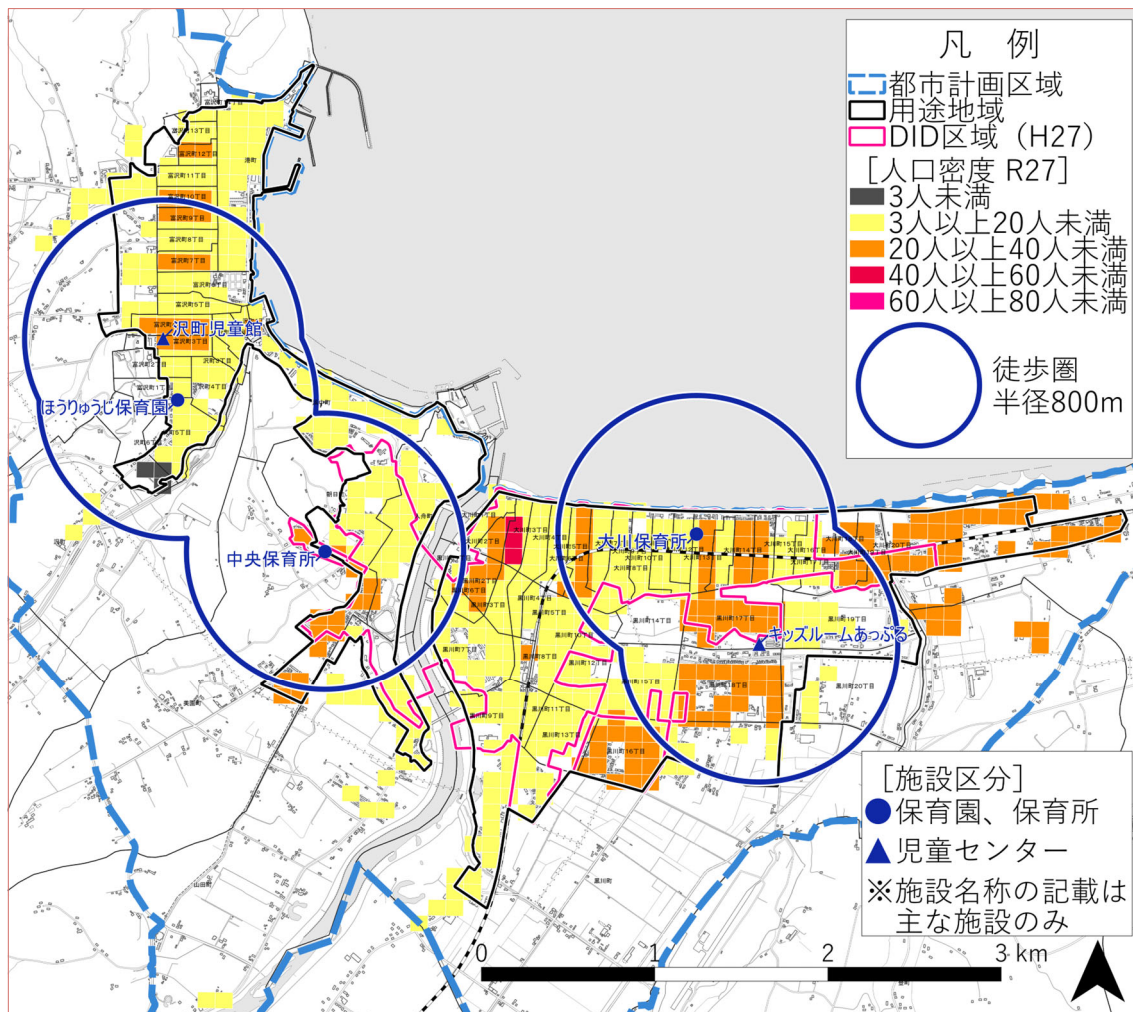
■保育・子育て施設の概要

凡例	種類	施設名	住所
●	保育園、 保育所	大川保育所	大川町12丁目3番地
		中央保育所	美園町43番地
		ほうりゅうじ保育園	沢町5丁目80番地
▲	児童 センター	沢町児童館	富沢町3丁目46番地
		キッズルームあっぷる	黒川町17丁目13番地8

※黒川児童館については令和6年4月で廃止。

(令和6年1月現在)

■保育・子育て施設の立地状況



※黒川児童館については令和6年4月で廃止。

(令和6年1月現在)

(7) 福祉施設

福祉施設は、通所となる施設を取り上げると、JR余市駅を中心とした範囲及び沢町周辺のエリアに関しては高密度に集積しており、徒歩でも通える立地となっています。

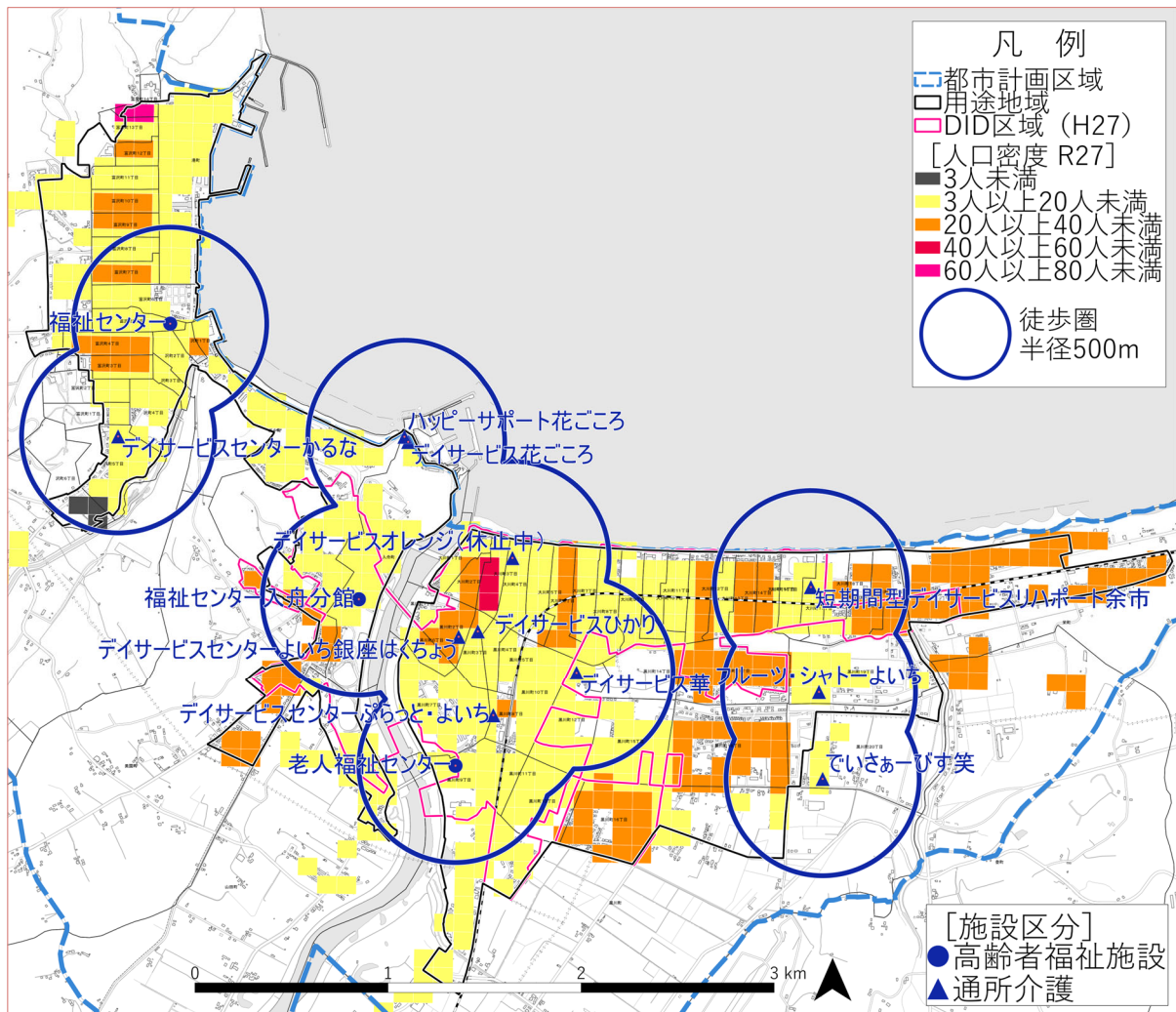
郊外では、公共交通の利用や送迎による移動が不可欠となっています。

■福祉施設の概要

凡例	種類	施設名	住所
●	高齢者福祉施設	福祉センター	富沢町5丁目13番地
		福祉センター入舟分館	入舟町400番地
		老人福祉センター	黒川町9丁目61番地
▲	通所介護	フルーツ・シャトーよいち	黒川町19丁目1番地2
		デイサービスセンターかるな	沢町5丁目77番地
		デイサービスひかり	黒川町3丁目36番地
		短期間型デイサービスリハポート余市	大川町17丁目3番地
		デイサービス花ごころ	入舟町9番地6
		ハッピーサポート花ごころ	入舟町9番地4
		デイサービスセンターぱらっと・よいち	黒川町8丁目26番地
		デイサービス華	黒川町12丁目3番地
		でいさあーびす笑	黒川町20丁目12番地18
		デイサービスセンターよいち銀座はくちょう	黒川町2丁目91番地
		デイサービスオレンジ(休止中)	大川町4丁目23番地

(令和6年1月現在)

■福祉施設の立地状況



(令和6年1月現在)

(8) 集会施設

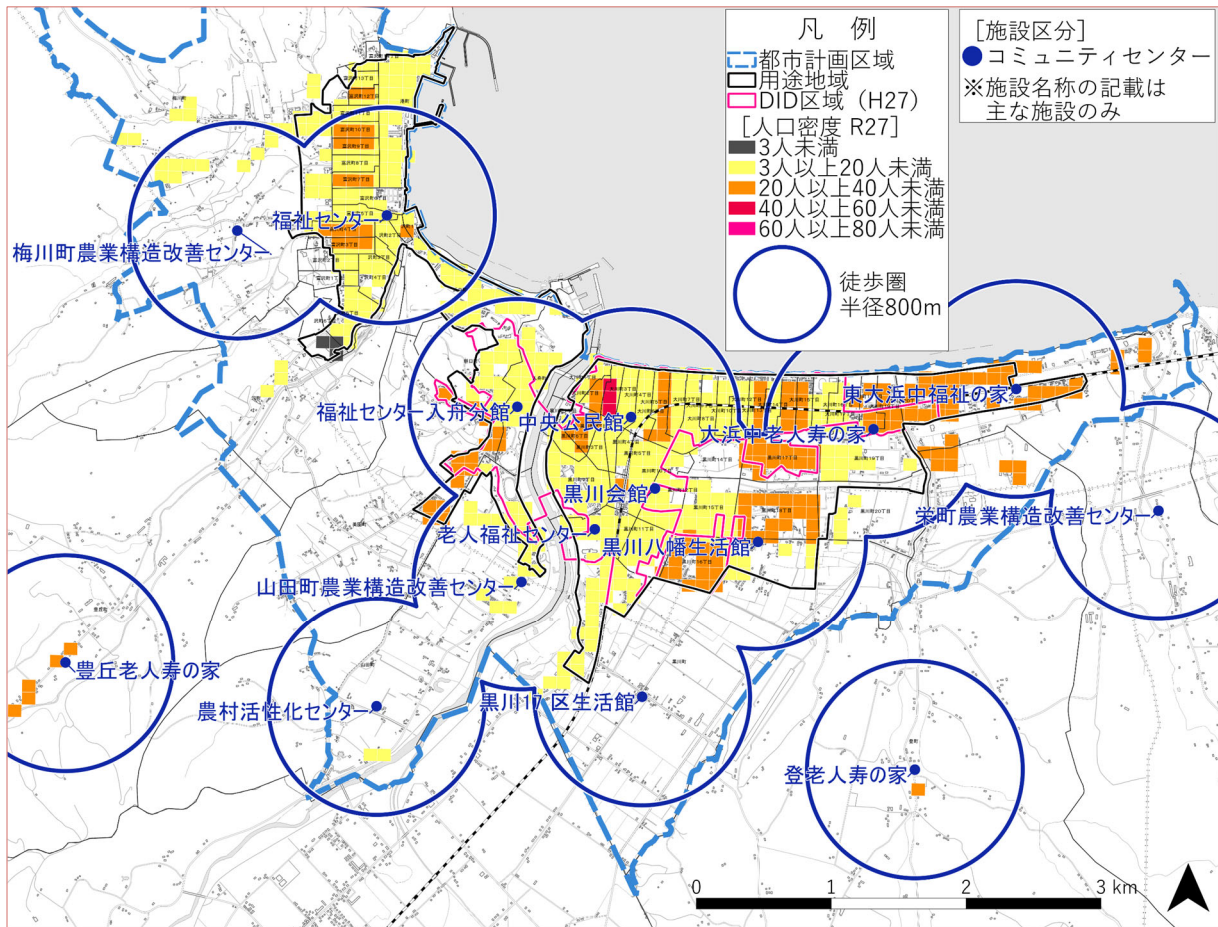
集会施設は、現状では郊外も含めた広い範囲に施設が点在しており、災害時の避難なども含めた公共サービスの提供を可能としていますが、老朽化が進んでいます。

■集会施設の概要

凡例	種類	施設名	住所
●	コミュニティセンター	中央公民館	大川町4丁目143番地
		農村活性化センター(メッセ・アップルドリーム)	山田町577番地
		栄町農業構造改善センター	栄町601番地3
		山田町農業構造改善センター	山田町326番地2
		梅川町農業構造改善センター	梅川町1085番地5
		老人福祉センター	黒川町9丁目61番地
		黒川会館	黒川町12丁目66番地
		黒川八幡生活館	黒川町572番地
		黒川17区生活館	黒川町1225番地
		登老人寿の家	登町1012番地2
		豊丘老人寿の家	豊丘町644番地
		大浜中老人寿の家	大川町19丁目23番地
		豊浜生活改善センター	豊浜町209番地1
		白岩会館	白岩町179番地
		東大浜中福祉の家	栄町399番地104
		福祉センター	富沢町5丁目13番地
		福祉センター入舟分館	入舟町400番地

- (令和6年1月現在)

■集会施設の立地状況



※都市計画区域内およびその周辺の主な施設のみ表示

(令和6年1月現在)

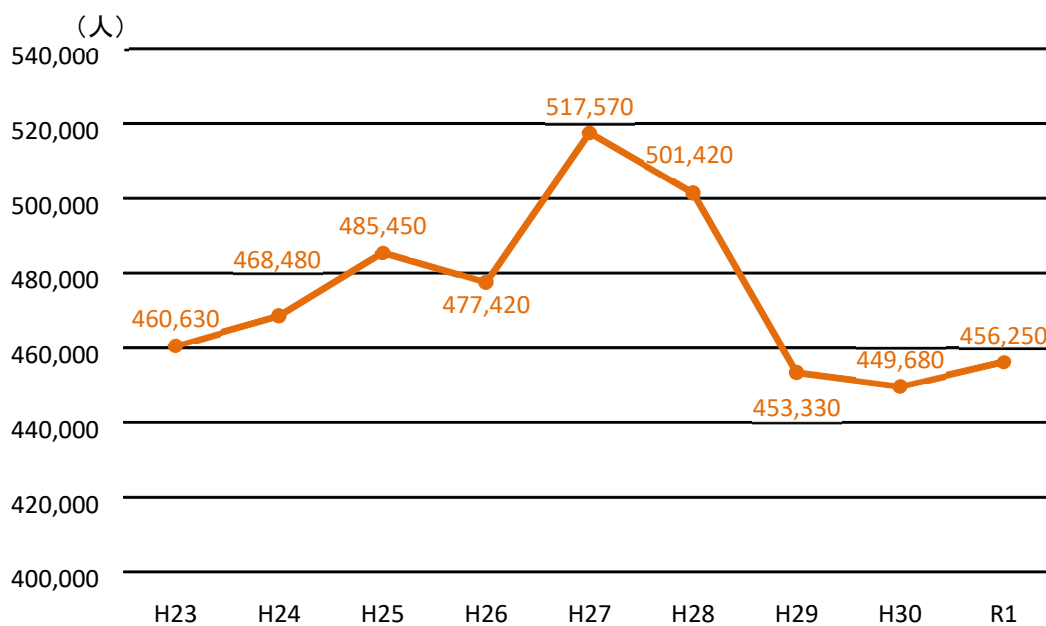
2-4. 公共交通の利用実態

(1) 鉄道

JR余市駅の年間乗客数は、平成23年（2011年）から平成26年（2014年）までは48万人前後を推移していましたが、平成27年（2015年）には51万7千人と大きく増加しています。以降は乗客数が減少し、令和元年（2019年）は45万人となっています。

近年は、JR函館本線の長万部・小樽間に対して北海道新幹線延伸により並行在来線は廃止の予定であり、バスへの転換が有力です。このため、北海道新幹線並行在来線対策協議会では、2030年までにバスを中心とした新たな交通ネットワークの構築に向けた検討を進めており、本町においても、現在のJR余市駅のバスターミナル化と公共交通網の再構築を検討する必要があります。

■ JR駅年間乗客数の推移（資料：国土数値情報 駅別乗降客数データ）

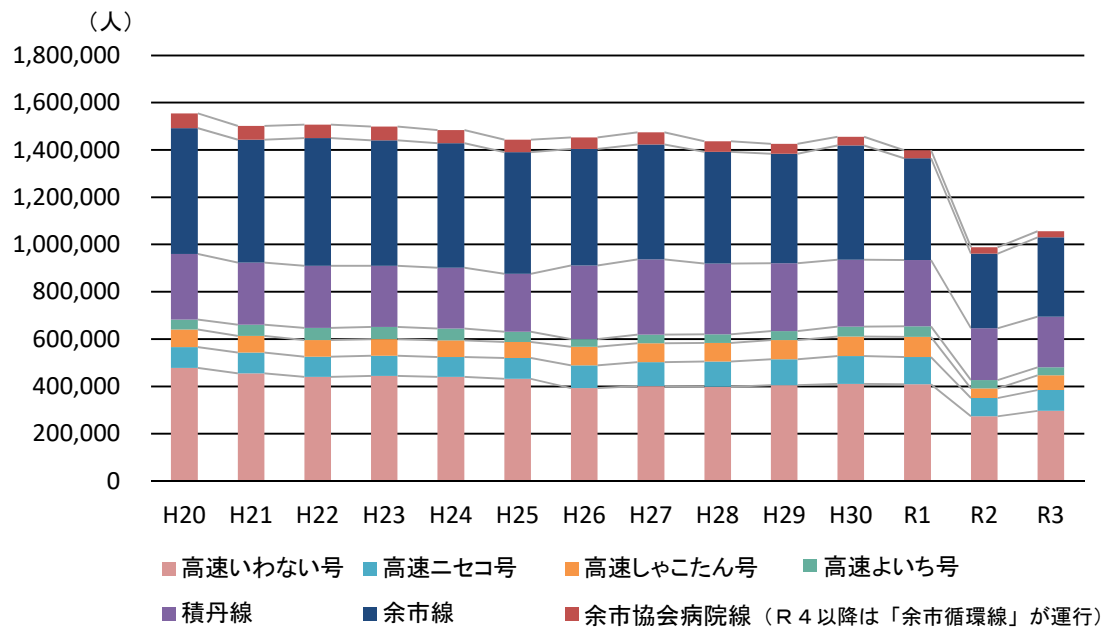


(2) バス

バス路線は、高速バスが4路線、幹線バス・地域内バスが3路線運行しており、平成20年(2008年)から令和元年(2019年)までの年間輸送人数は、ほぼ変わらず推移しています。全路線を合わせた輸送人数についても、150万人程度を維持している状況にあります。

しかし、令和2年(2020年)は新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が大幅に減少し、令和3年(2021年)の年間輸送人数も105万人と低下しています。

■バス路線別利用人数の推移(資料:余市町地域公共交通計画)



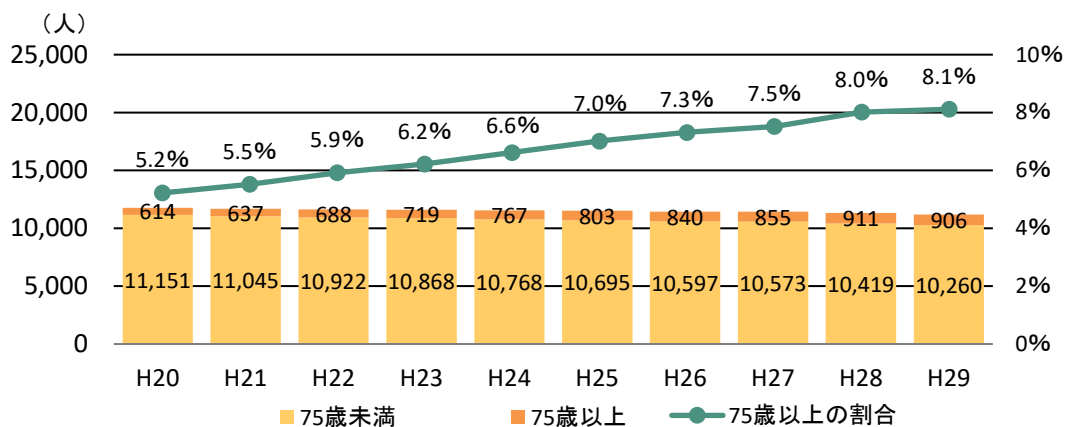
(3) 高齢者の自動車運転

高齢者の自動車運転免許保有数は、平成29年（2017年）では906人（8.1%）となっており、平成20年（2008年）の614人（5.2%）から約10年間で292人（2.9ポイント）増加しています。

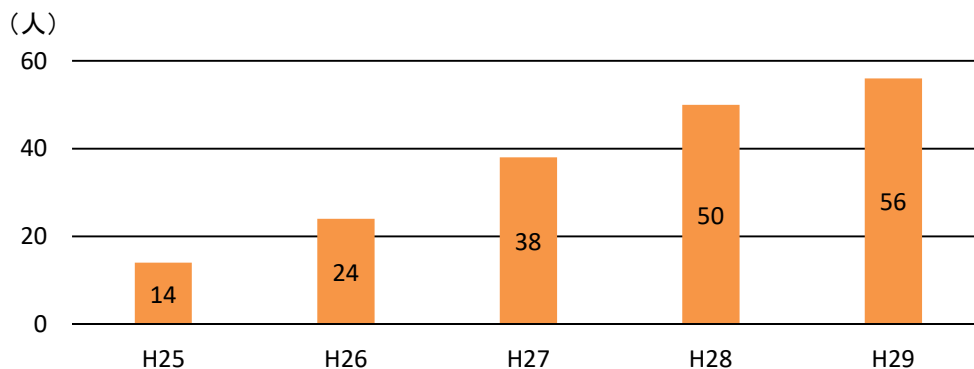
運転免許自主返納者数は、平成29年（2017年）では56人となっており、平成25年（2013年）の14人から5年間で4倍に増加しています。

このように、自主返納が上がっても高齢化率の上昇により、高齢者の免許保有率は微増で推移しています。

■高齢者自動車運転免許保有数の推移（資料：余市町地域公共交通計画）



■高齢者自動車免許返納数の推移（資料：余市町地域公共交通計画）



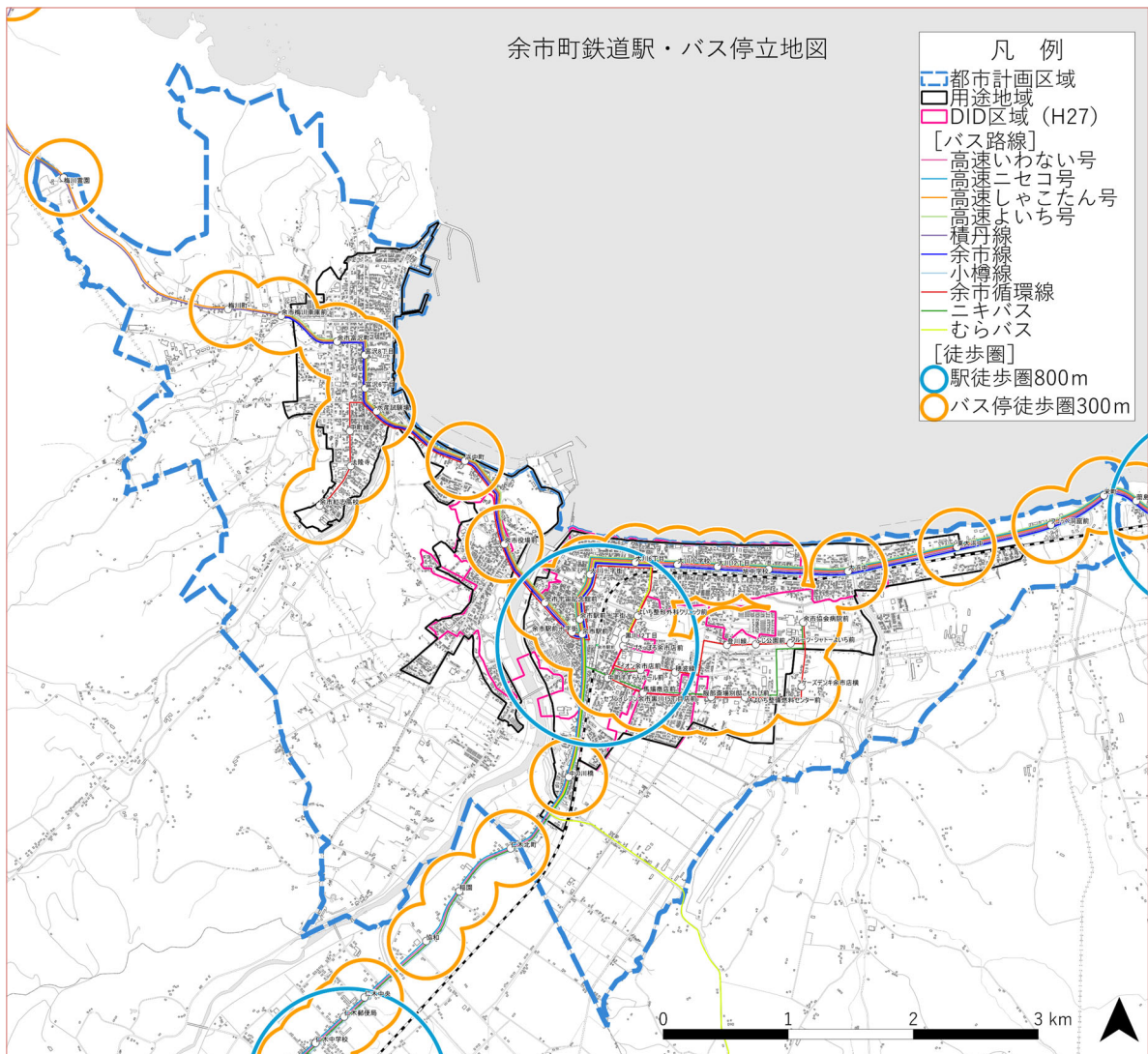
(4) 公共交通カバー圏

余市町の公共交通には鉄道とバスがあり、市街地の大部分は、鉄道駅から徒歩圏800m、バス停から徒歩圏300m内に含まれています。

運行便数は、高速バスの高速いわない号が15往復と最も多く、他は1往復から3往復の運行となっています。幹線バスは余市線が23往復と最も多く、積丹線は往路が11本、復路は8本、小樽線は4往復の運行となっています。高速バスと幹線バスの路線が併行しているため、両方の運行便が住民の生活移動を支えています。

地域内バスは余市循環線1路線のみで、余市駅と余市紅志高校や大型店と余市協会病院の間を循環運行する路線として令和4年4月から運行を開始しています。

■鉄道駅・バス停の立地図



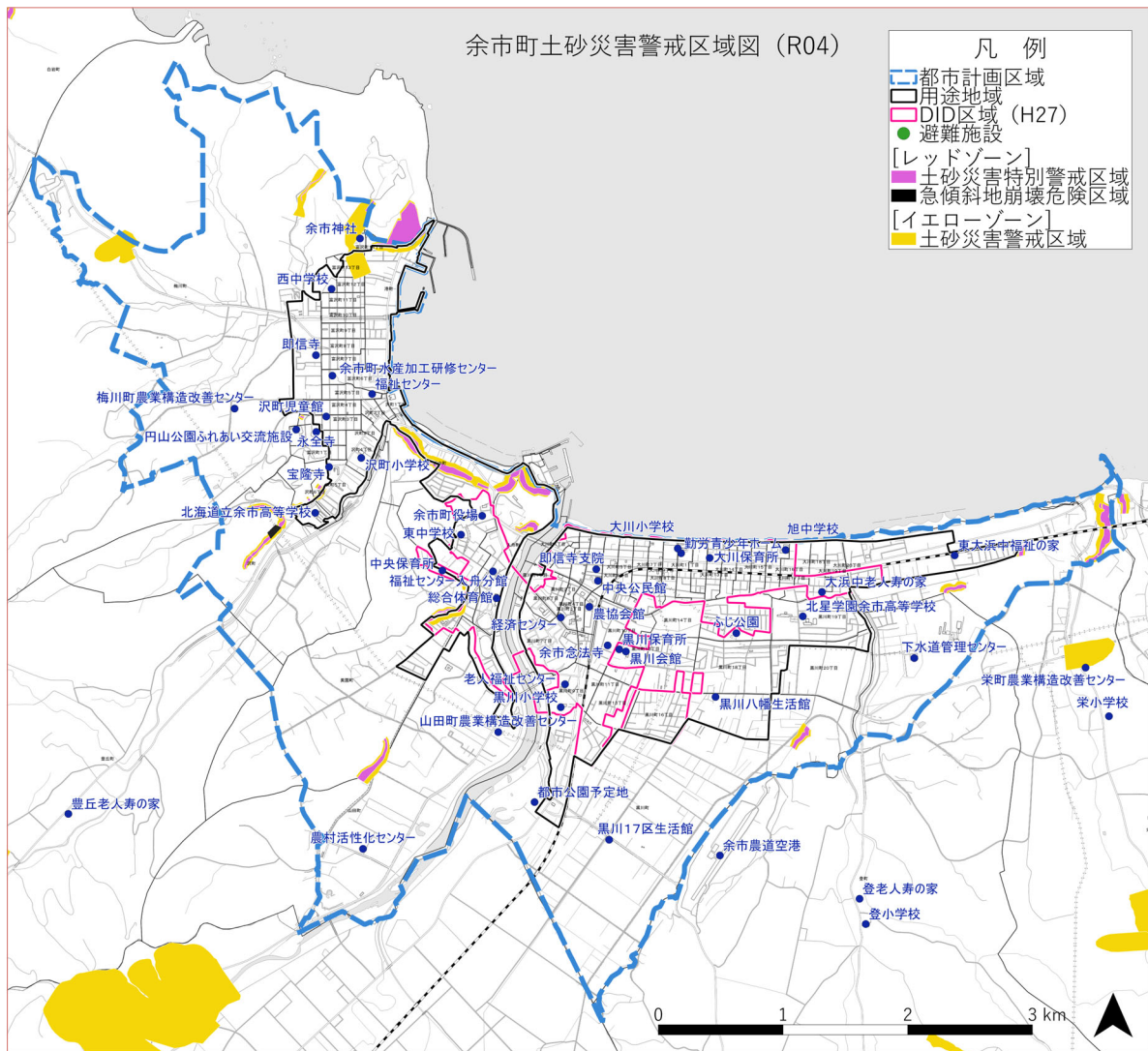
(令和5年11月現在)

2-5. 災害危険区域の状況

(1) 土砂災害

土砂災害では、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域及び急傾斜地崩壊危険区域が、町内全域の丘陵に点在し、指定されています。(詳細は51Pを参照)

■土砂災害警戒区域図 (資料：国土交通省 土砂災害警戒区域データ (令和4年))

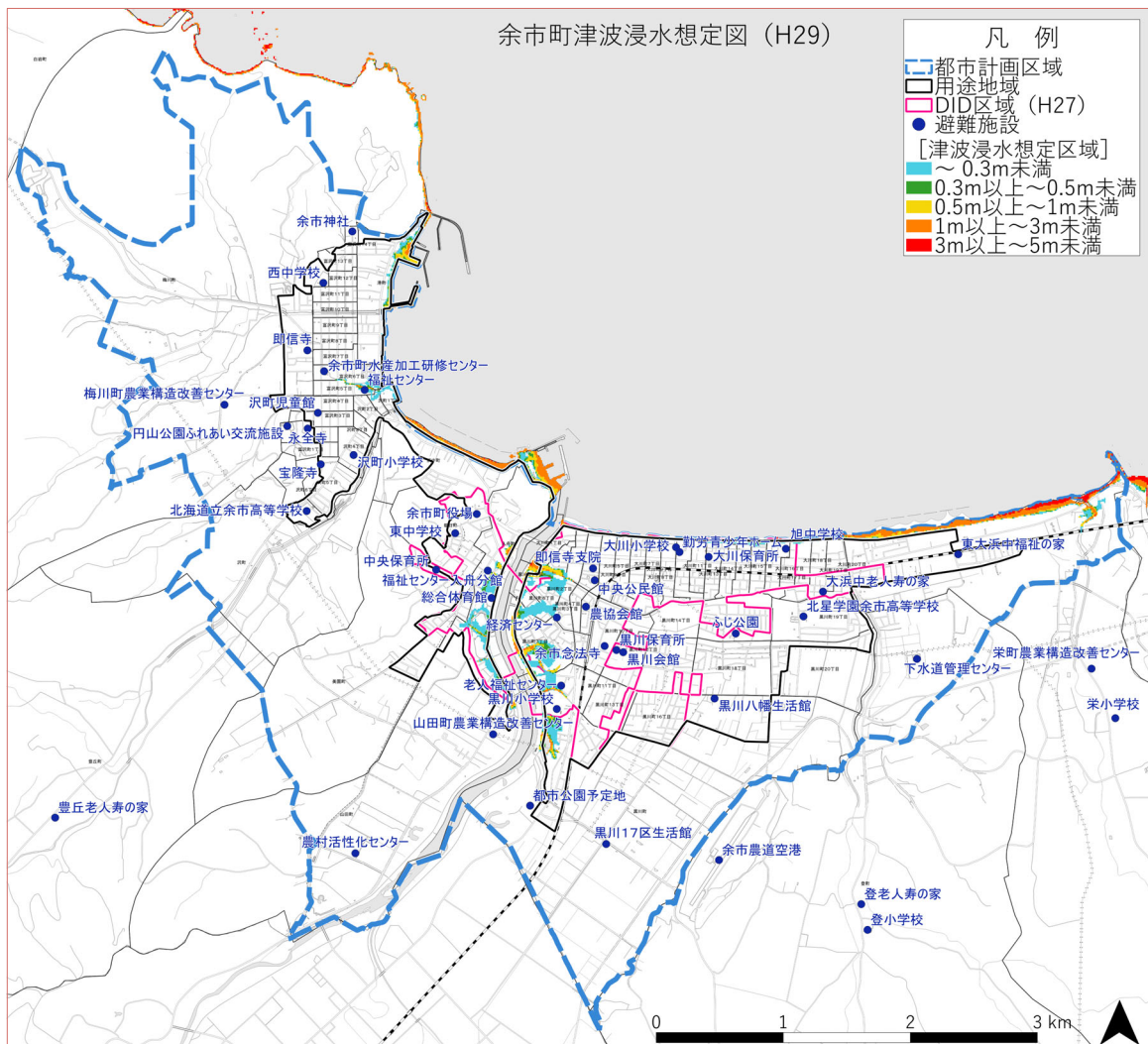


(2) 津波災害

津波浸水想定では、家屋の1階が完全に水没するおそれがある3.0m未満の浸水深となる区域が、海岸沿いに想定がされていますが、護岸等の整備により居住地への影響は少ないものと想定されています。

沿岸部から離れた居住地であっても、河川を遡る津波により、河川沿いには0.3m未満の浸水深となる場所が想定されています。特に、余市川の両岸には、河川を遡る津波による浸水範囲が広く想定されています。(詳細は52Pを参照)

■津波浸水想定図(資料：国土交通省 津波浸水想定データ(平成29年))



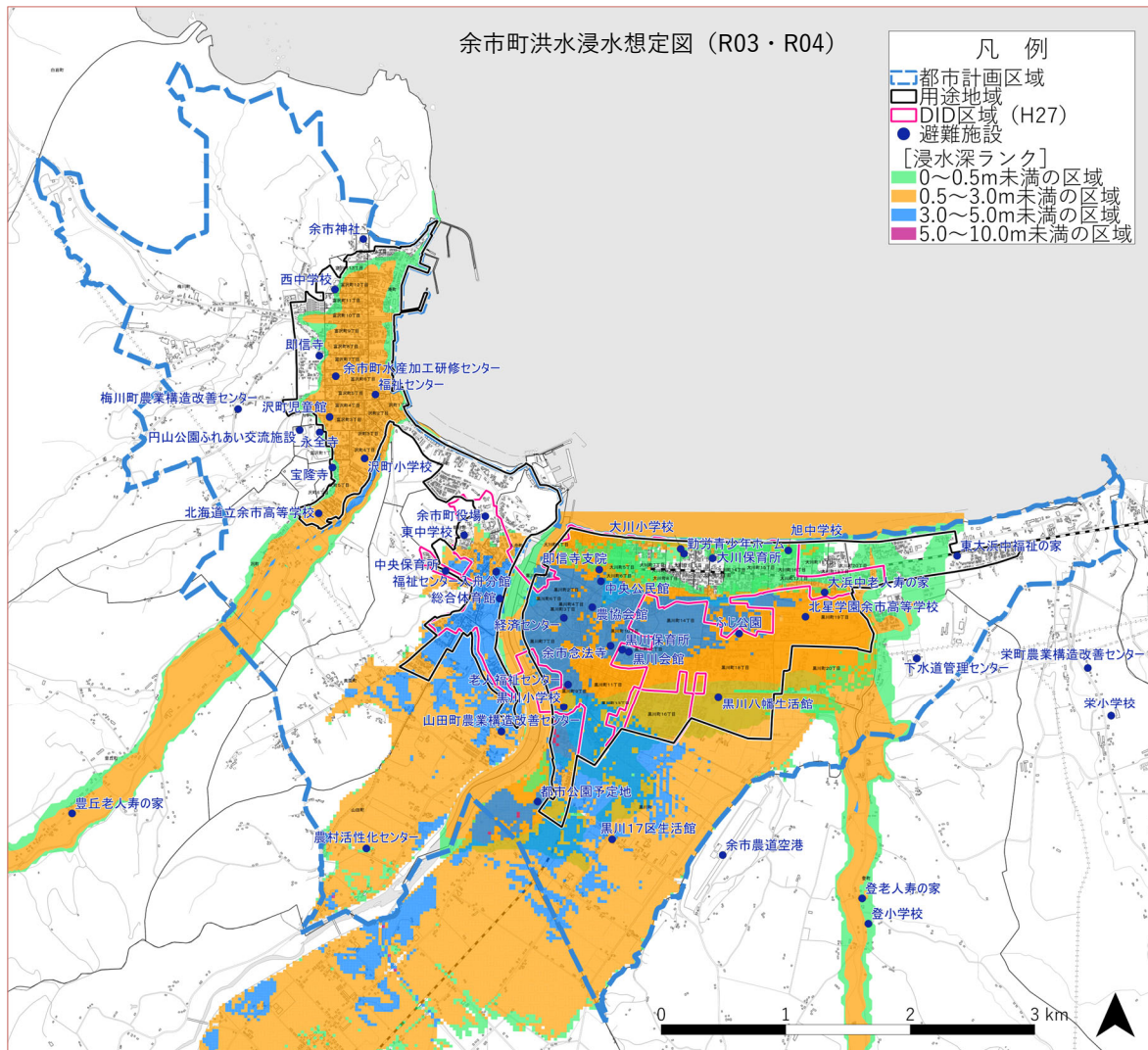
(3) 洪水浸水災害

洪水浸水想定における想定最大規模は、余市川で24時間降雨量439.2mm、ヌツチ川で2時間降雨量155mm、登川で2時間降雨量158mmと想定されています。

このため、市街地の広い範囲で家屋の1階部分が完全に水没する3.0～5.0m未満の浸水が、さらに余市川沿いでは人の背丈を超えるおそれのある0.5～3.0m未満の浸水が想定されています。

避難場所として指定している大半の施設は浸水想定区域内にあるため、洪水の際には使用できない状況が想定されます。(詳細は53P～55Pを参照)

■洪水浸水想定区域図



(余市川：令和3年、ヌツチ川・登川：令和4年、北海道後志総合振興局作成)

2-6. 経済動向

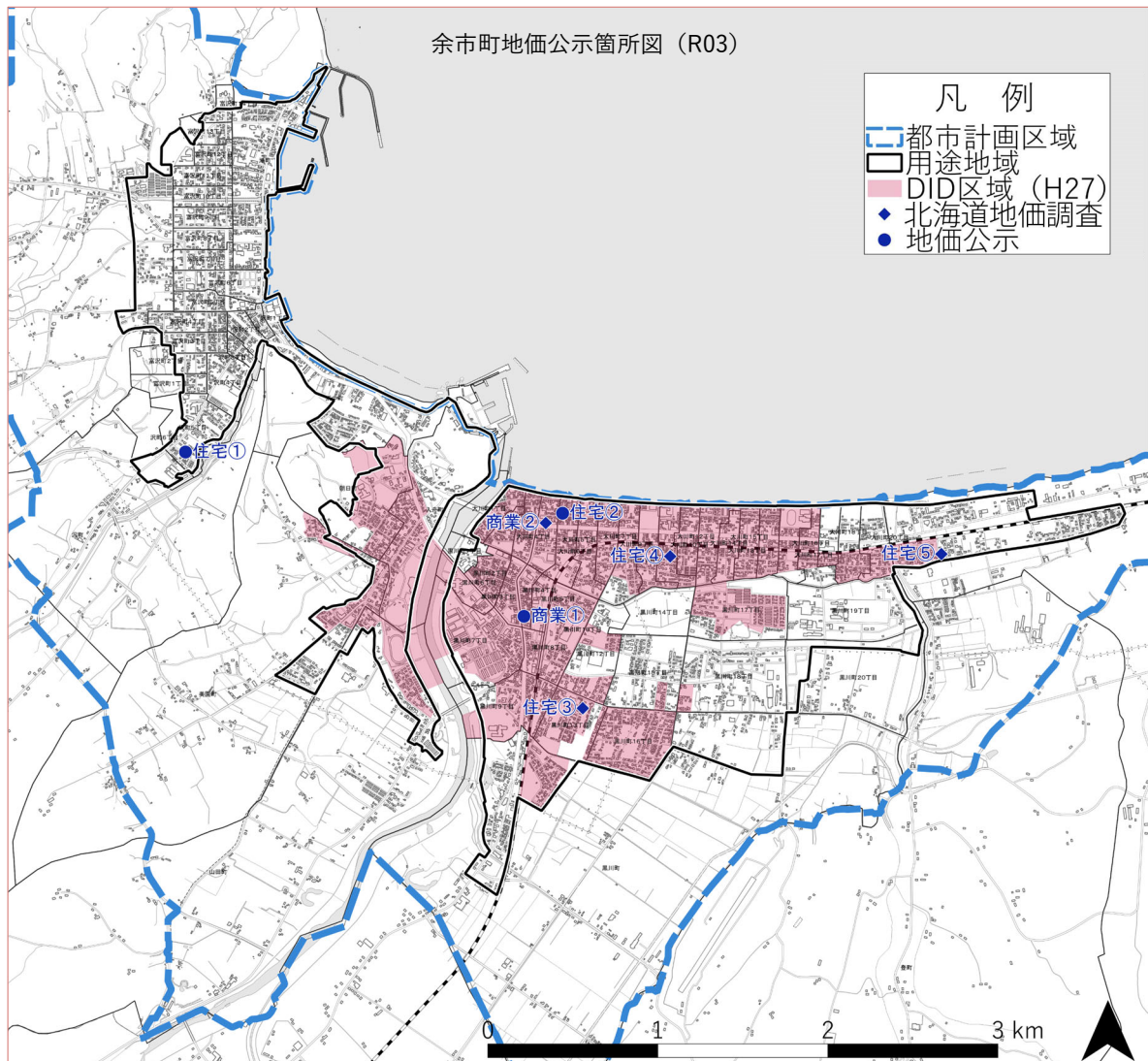
(1) 地価状況の推移

余市町内では、地価公示（国）が3地点、地価調査（北海道）が4地点設定されています。

平成13年から令和3年までの20年間の推移をみると、住宅地は、住宅①が62.2%、住宅②が68.3%、住宅③が52.6%、住宅④が57.4%、住宅⑤が69.5%下落と、いずれも半分以下の価格まで低下し、長期的な下落傾向にあります。

商業地では、商業①が75.7%、商業②が71.8%と70%以上の下落を示しており、住宅地よりも下落率が大きくなっています。

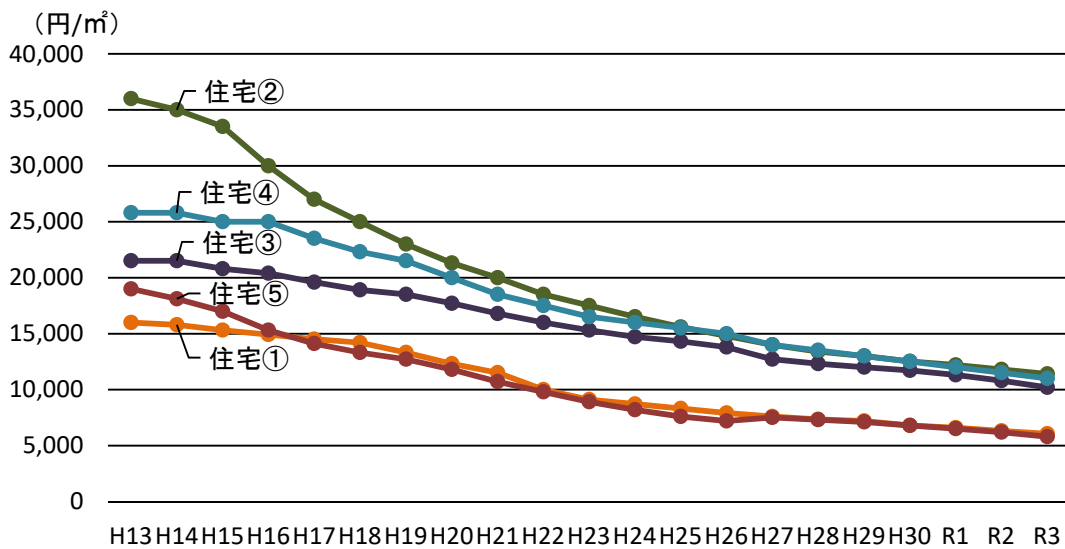
■地価の公示箇所図（資料：国土交通省 地価公示・北海道地価調査）



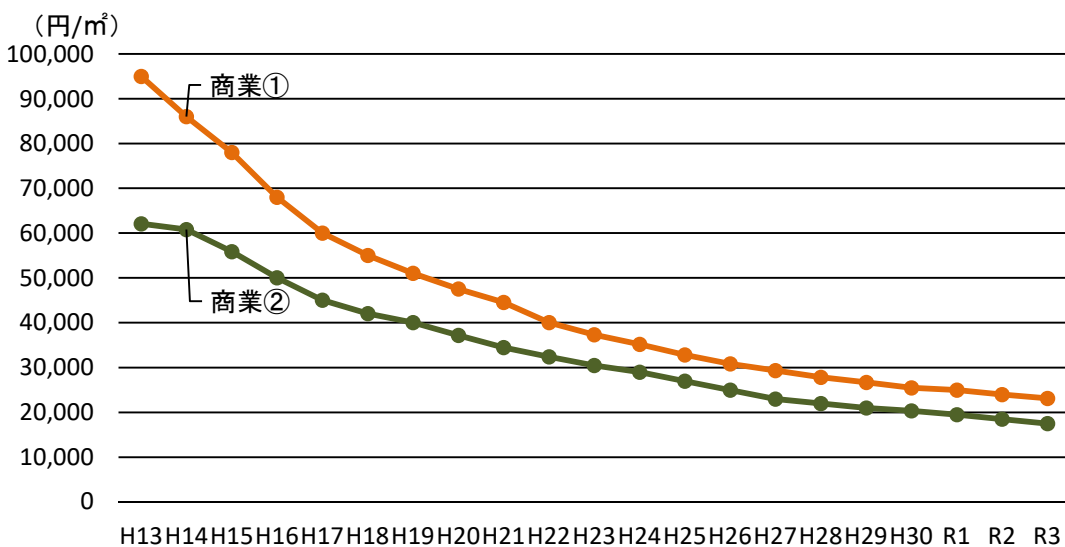
■地価の公示箇所（資料：国土交通省 地価公示・北海道地価調査）

凡例	所在及び地番	資料
住宅①	沢町5丁目4番28	国土交通省地価公示
住宅②	大川町5丁目15番3	国土交通省地価公示
住宅③	黒川町13丁目4番17	北海道地価調査
住宅④	大川町10丁目31番18	北海道地価調査
住宅⑤	栄町414番8	北海道地価調査
商業①	黒川町4丁目112番外	国土交通省地価公示
商業②	大川町4丁目57番1外	北海道地価調査

■住宅地の地価の価格動向（資料：国土交通省 地価公示・北海道地価調査）



■商業地の地価の価格動向（資料：国土交通省 地価公示・北海道地価調査）

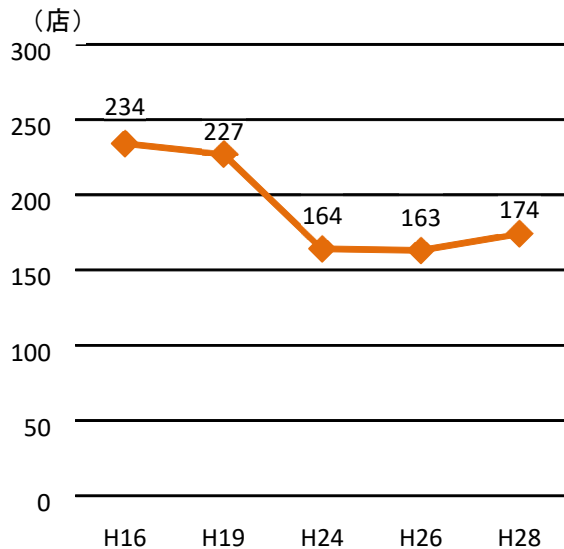


(2) 経済活動の推移

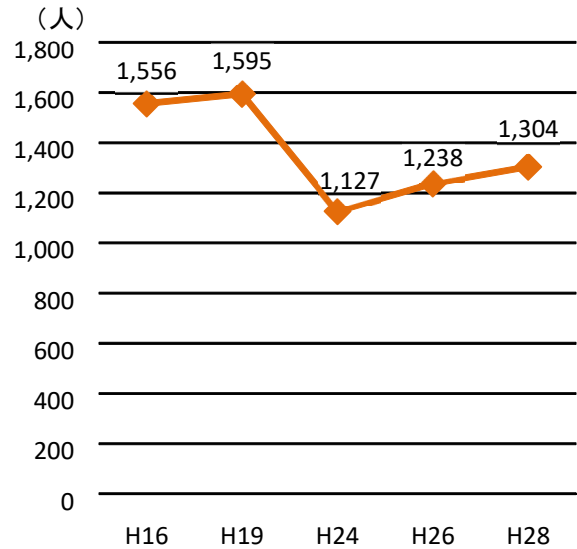
小売事業所数は、平成24年に大きく数を減らしていますが、平成28年は増加に転じています。小売販売額も、平成24年以降は増加傾向にあり、従業者数の増加・雇用の創出につながっています。

対して、売り場面積は平成24年を境に減少しており、コンビニエンスストアをはじめとする中小規模の店舗が増えていると推察されます。

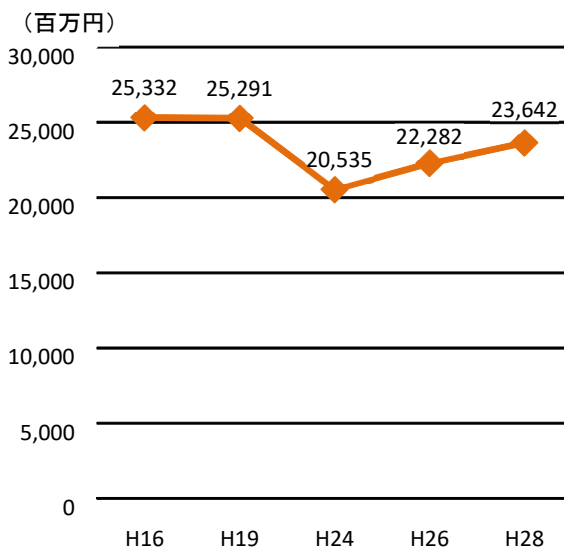
■小売事業所数の推移



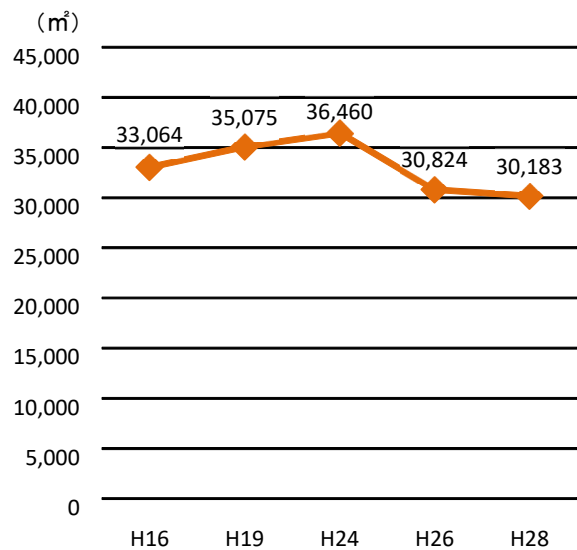
■小売業従業者数の推移



■小売年間販売額の推移



■小売業売り場面積の推移



(資料：商業統計調査・経済センサス-活動調査)

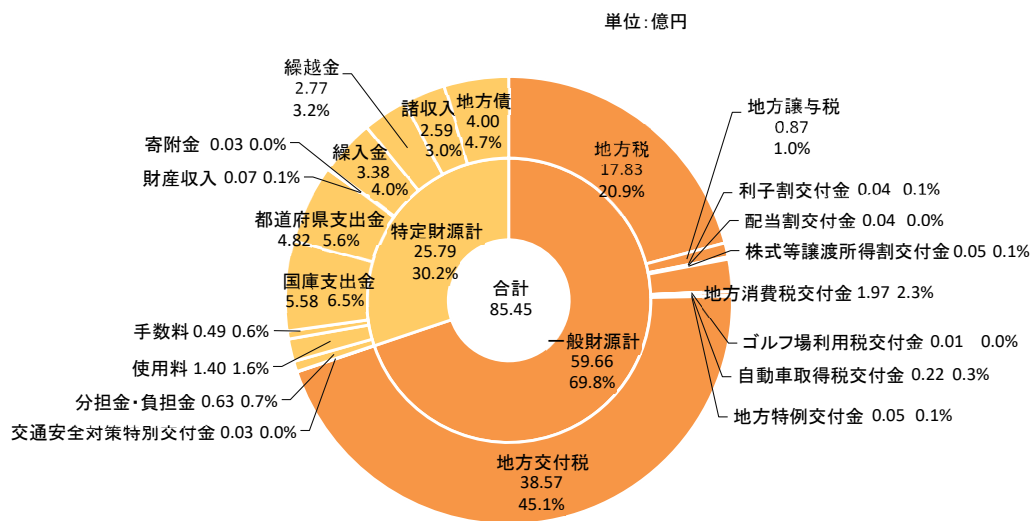
2-7. 財政状況

(1) 財源別歳入

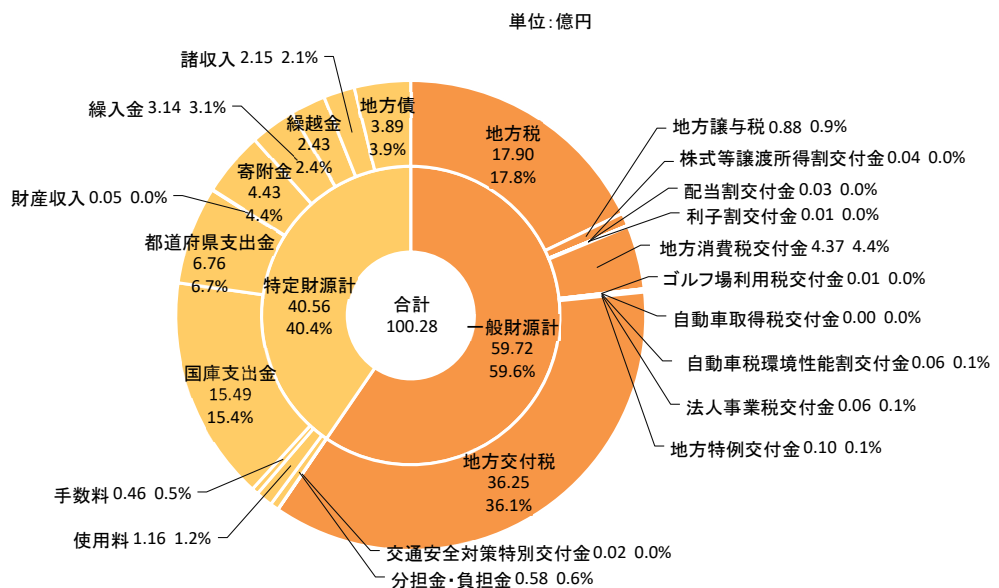
余市町の財源別収入は、令和2年度（2020年度）では合計で約100億円となっており、平成25年度（2013年度）よりも約15億円増えています。

一般財源と特定財源の割合は、令和2年度（2020年度）は特定財源の割合が2割程度増えています。地方自治のためには、地方公共団体が収入を自由に使用できる裁量権をもつことが重要と考えられますが、一般財源の比率が小さくなっています。

■平成25年度財源別歳入決算額（資料：余市町財政状況資料集）



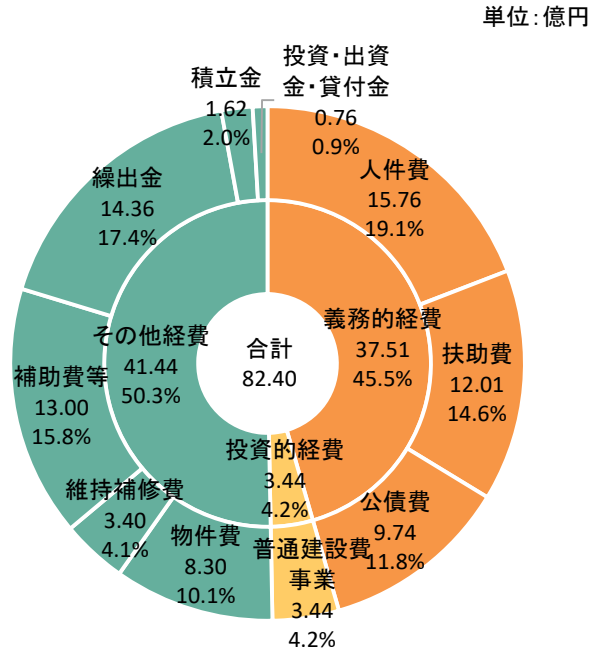
■令和2年度財源別歳入決算額（資料：余市町財政状況資料集）



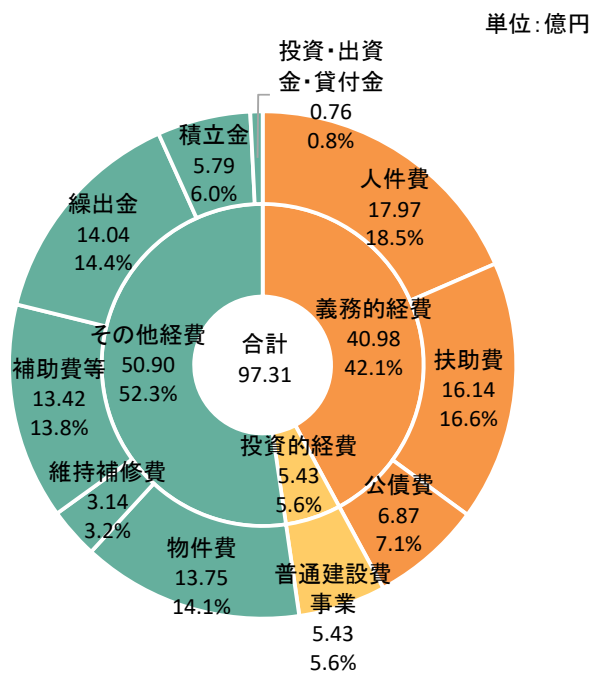
(2) 性質別歳出

余市町の性質別歳出は、令和2年度（2020年度）では合計で約97億円となっており、平成25年度（2013年度）よりも約15億円増えています。

■平成25年度性質別歳出決算額（資料：余市町財政状況資料集）



■令和2年度性質別歳出決算額（資料：余市町財政状況資料集）

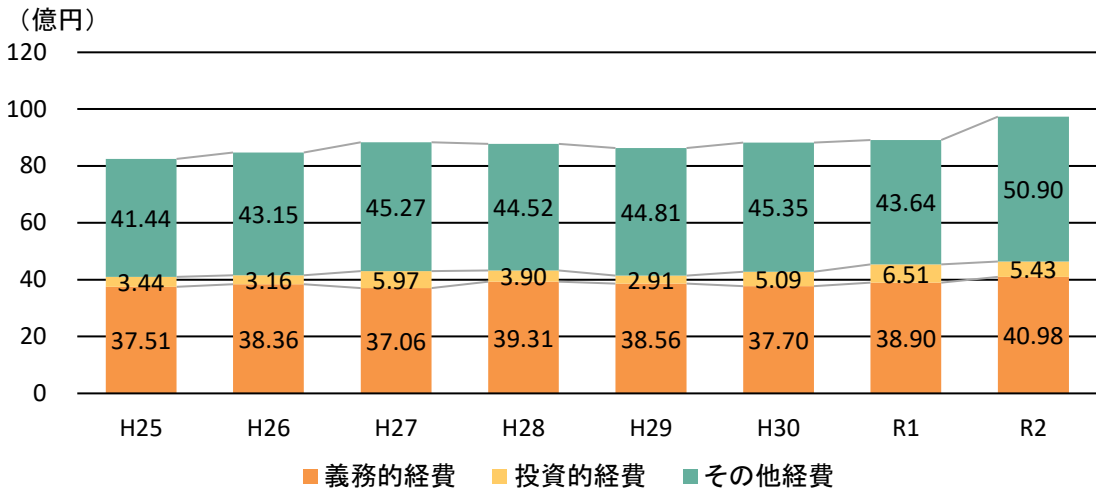


(3) 義務的・投資的経費

義務的経費・投資的経費は、大幅な増減なく推移していますが、義務的経費は、社会福祉サービスの充実及び高齢化に伴い、扶助費の上昇が今後も予想されます。

投資的経費は、老朽化した公共施設の更新及び大規模改修にかかる建設費事業の増加が予測されます。また、令和2年のその他経費が多いのは定額給付金があったためです。

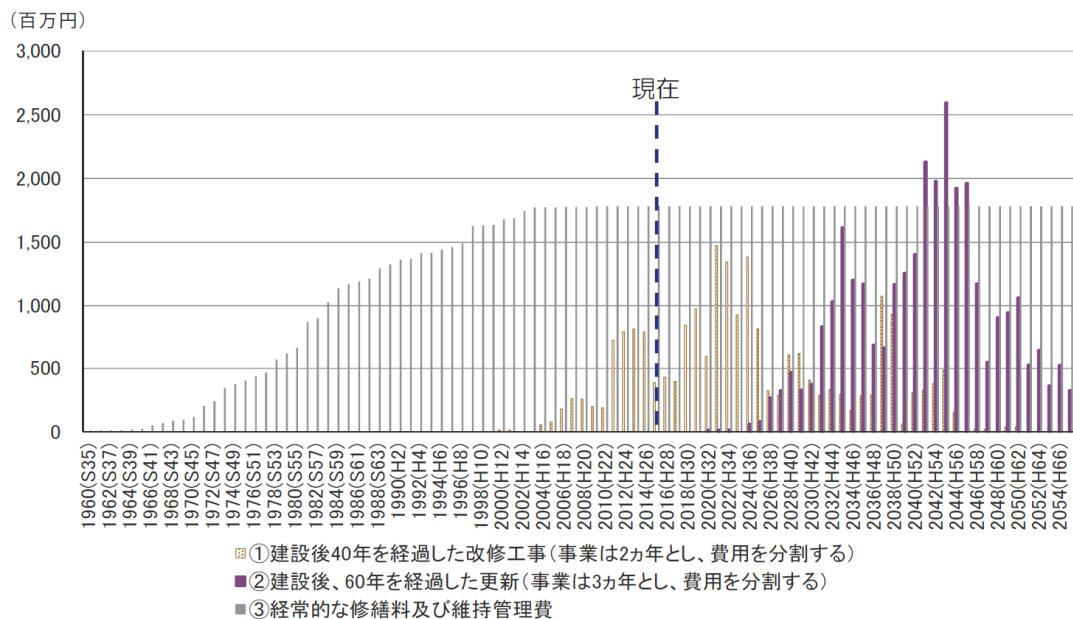
■義務的・投資的経費の推移（資料：余市町財政状況資料集）



(4) 公共施設の管理費等

現在の公共施設（建築物）の管理は、「余市町公共施設等総合管理計画」で方針を定めており、老朽化した施設の増加に伴い、公共施設の更新に係る経費も増加することが予想されています。

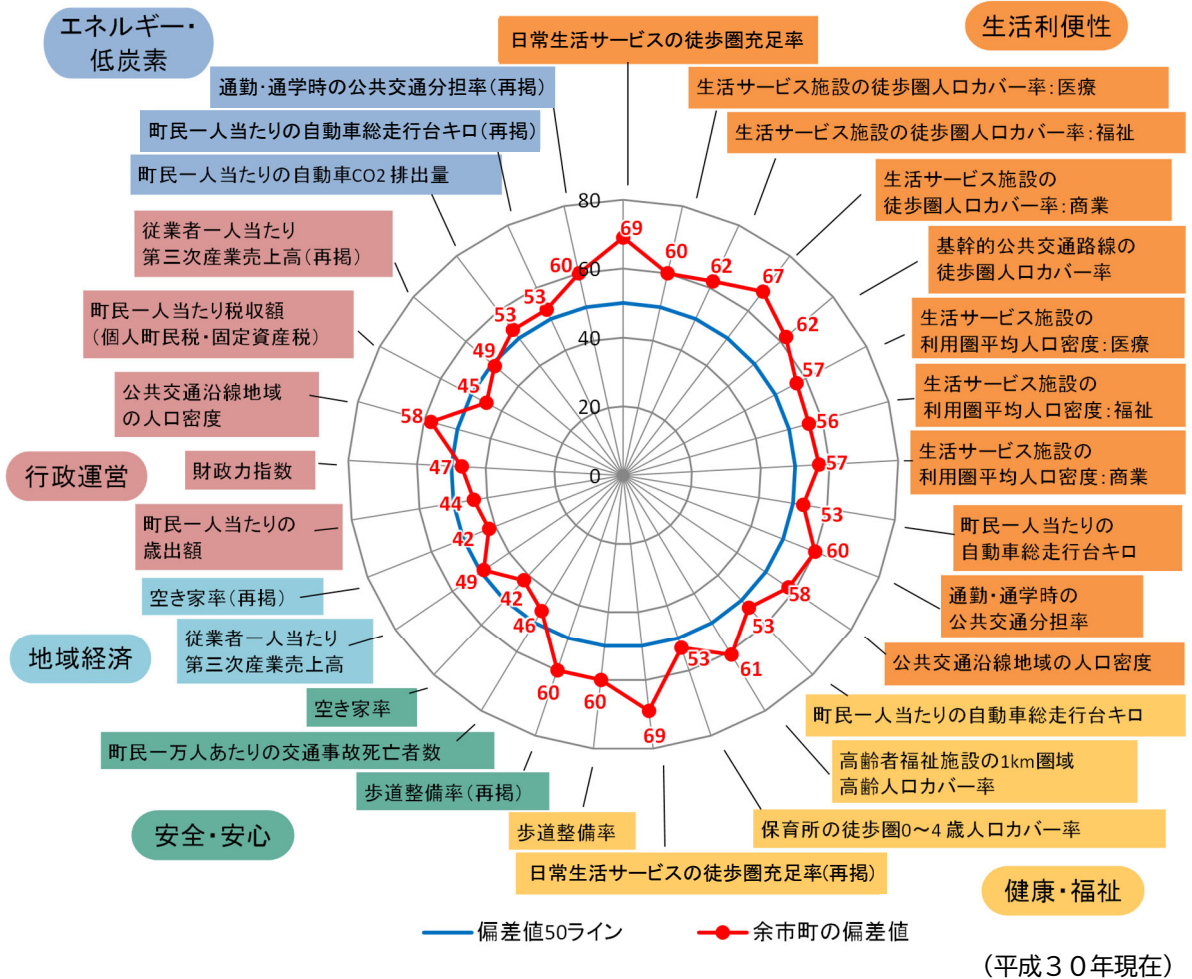
■公共施設（建築物）の将来更新費用の推計（資料：余市町公共施設等総合管理計画（H28.3））



2-8. 都市構造上の評価

現況の都市構造について、評価項目ごとの各指標を偏差値にし、人口規模が類似する他都市の平均と比較します。

■都市構造評価指標のレーダーチャート（資料：「都市構造の評価に関するハンドブック」を参考に作成）



評価分野	分析結果
生活利便性	すべての施設について徒歩圏カバー率、利用圏平均人口密度が平均値を上回っており、公共交通に関する項目も平均値以上を示していることから、評価は良いと言えます。
健康・福祉	高齢者福祉施設、保育所の人口カバー率、歩道整備率が平均値を上回っており、評価は良いと言えます。
安全・安心	交通事故死者数及び空き家率が平均値を下回っており、良い評価ではありません。
地域経済	第三次産業売上高、空き家率ともに平均値を下回っており、良い評価ではありません。
行政運営	公共交通沿線地域の人口密度は平均値を上回っているものの、財政力や税収額等が下回っているため、あまり良い評価ではありません。
エネルギー・低炭素	CO ₂ 排出量、自動車走行キロが平均値を上回っており、評価は良いと言えます。
総括	「安全・安心」、「地域経済」、「行政運営」の3分野の評価が総合的に低くなっています。特に、空き家率の評価が低く、空き家対策の推進が必要です。

2-9. 課題の整理

余市町の人口、土地利用、都市施設、公共交通などの現状把握により得られた結果から、将来懸念される課題を整理します。

■余市町の現状と課題

項目	現状まとめ	将来懸念される課題
人口	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来人口は、2020年国勢調査の実績値18,000人に対し、2045年には9,847人と半減する見通しです。 ・ 高齢化率も年々増加し、2020年では40.5%、2045年では50.3%と推計されています。 ・ 将来市街地の広い範囲で低密度化が予測され、3~20人/haとなる地区が多数を占めることが想定されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少に伴って人口密度の低い地域が増加し、生活サービス機能や産業の活力が維持できなくなります。 ・ 高齢化が進行するため、高齢者が利用しやすい公共交通のあり方が必要となります。 ・ 高齢化に伴う福祉需要が増加し、福祉分野での人材確保が課題となります。
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家率・空き家数が5年間で増加しています。（※町の独自調査結果） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少に伴う空き家の増加により居住環境の悪化（建物倒壊、犯罪）や資産価値の減少（固定資産税）が懸念されます。
都市機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR余市駅周辺及び沢町には各種施設が点在し、地域の核となるエリアを形成しています。 ・ 「行政施設」、「保育・子育て施設」、「集会所」については、徒歩圏をカバーできていない地域が存在しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少とともに商業も含めた施設利用者が減少し、現在のサービスの維持が困難になります。 ・ 現在施設が充足できていない地域は、居住環境の低下が進行し、さらに地域格差が生じる可能性が考えられます。
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR及び路線バスの利用者は、新型コロナウイルス感染症対策前は横ばいの傾向が見られます。 ・ 高齢者の運転免許保有数は、増加しています。 ・ 市街地の大部分は鉄道駅やバス停から徒歩圏内に含まれていますが、北海道新幹線延伸によりJR並行在来線は廃止の予定です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、JR並行在来線が廃止になると、地域の交通体系が大きく変化し、移動に制約が生じることが懸念されます。 ・ 将来的な運転免許返納者の増加を見据えた移動手段の確保が必要です。 ・ 減便や路線の見直しによって、高齢者などの交通弱者の利便性が損なわれるほか、交通空白地帯が生じる可能性があります。
災害リスク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 津波・洪水災害は、町内各河川沿いに浸水区域が広がっており、災害時に地域内の避難場所の大半は使用できなくなる可能性があります。 ・ 丘陵地の崖地部分や市街地の一部に、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域及び急傾斜地崩壊危険区域が指定されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 余市川は中心市街地内を流れており、将来的にも一定の人口集積が見込まれる地域であるため、災害によって人命や財産がおびやかされる可能性があります。
経済動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅地、商業地、工業地ともに、地価は下落傾向にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口密度が低下し、生活サービスが維持できず、さらに地価の下落が懸念されます。 ・ 地価の下落により固定資産税が減少し、財政を圧迫する恐れがあります。
財政状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 余市町の歳入は、国からの依存財源に頼る状況が続いています。 ・ 余市町の歳出は、高齢化率の上昇による医療費や扶助費など、老朽化した施設の更新・改修費の増加が今後予測されます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 裁量権を持つ町税の確保が、人口減少とともに難しくなることが想定されます。